



創立半世紀に向けて

福島東高等学校同窓会長

佐戸川 政実



本校一期生で、同窓会長を務めさせていただいております佐戸川政実と申します。生徒、教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、同窓生の皆様におかれましては日頃から「東高応援基金」を通じて本校生徒へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

まず、現役の後輩たちの素晴らしい活躍に心からの賛辞を送りたいと思います。開校から続く校訓「創造」「協調」「躍進」、

校是「文武両道」のもと、令和五年度は国公立大学合格八十四名、私立大学合格二百七十三名、難関私立大学への合格者もあり、勉学で数々の成果を上げております。

また、部活動においても、男子テニス部がインターハイ出場、全国総文には書道部生徒一名が初出場など素晴らしいパフォーマンスで、多岐にわたる分野でその才能を発揮しています。彼らの努力と情熱は、私たち卒業生にとっても大きな励みとなっております。

次に、日々生徒たちの成長を支えてくださっている教職員の皆様に、深い敬意と感謝の意を表したいと思います。先生方の熱心な指導と温かいサポートがあつてこそ、後輩たちは自信を

持つて未来に向かって進むことができるのです。私たち卒業生も、当時の先生方から受けた教えを胸に、それぞれの道で努力を続けております。

さて、私たち一期生は今年度「還暦」を迎えました。一五歳で期待と不安の入り混じった心持ちで新設校の門をくぐり、あれから四十五年。校舎も体育館もプールも音楽室も図書館も、そして部活動する部も校歌も無い。まさに、無い無いづくしの高校生活の始まりでした。現役の後輩の皆さんにはピンとこないかもしれませんが、ついでに「先輩」もいませんでした。

唯一、校内に満ち溢れていたのは先生方の「情熱」。歴史ある他の進学校に追い付け追い越せと、授業も部活動も熱気あるものでした。残念ながら、我々生徒たちは呑気で気ままな学校生活を送ってしまいましたのでご迷惑も多々お掛けしており、恩師の方々のご苦勞もつゆ知らず、

わが身を恥じるばかりです。

そんな私たち一期生もいつしか大人になり歳を重ね、母校を懐かしむ余裕ができ、十年前、五十歳の節目に有志で一期生の親睦会「一桜会」を立ち上げました。一桜会旗も作り、集まるたびに会場に掲げた「東高ブルー」の旗を眺めては青春時代を思い出しています。

私たちは還暦を迎え社会人として区切りをつけることとなり、改めて旧交を温めるため「福島東高一期生一桜会 還暦を祝う会」を令和六年一〇月五日に行いました。卒業以来四十二年余り、音信の途絶えていた同級生との連絡は様々な手段を用い何とか消息を確認。何度も実行委員会を開催し、当日は同級生四十二名の参加、恩師五名のご臨席を賜り大いに盛り上がりました。お互いに寄る年波には抗えず風貌は変われども、ひとたび語り合えば当時の思い出話に花が咲きます。また、恩師の

過去の同窓会会報のバックナンバーは同窓会Webサイトで閲覧可能です。

下記QRコードを読み取るか、「福島東高校同窓会」で検索またはURLを直接入力してください。



方々もお歳は召されてはいますが豊饒とされ、まだまだお元氣。東高勤務時の苦勞話には感謝しかありません。

最後に校歌斉唱を行い、改めて母校校歌の歌詞を深く味わうことができました。校歌は、私たち一期生が二年生の秋の文化祭(非公開・文化センターで開催)でお披露目されました。当時からモダンなメロディーで「顔を上げてわれら開かれた道を行く」は自然と心に響きました。一方で「今日は明日の歴史新しい伝統」、「はげしい心うつくしくせよ青春時代」の部分は、現役当時はどこかまだ先の話のような感覚でした。しかし、還暦を迎えた自分たちに置き換え、これまでの人生を振り返るとまさに青春時代を思い返し心に沁みました。全員が輪になり、肩を組み大声で歌いました。本当に福島東高の卒業生で良かったと実感しました。

私たちの母校、福島県立福島

一桜会開催、母校に浄財の寄付も



令和六年度で還暦を迎える一期生が、十月五日、ホテル福島グリーンパレスにて東高一期生の同窓会「一桜会」を開催しました。発起人代表である渡邊浩二さんが会長を務め、四十名の一期生と五名の恩師の先生が出席し、懐かしい思い出話に花が咲きました。参加者からは母校の後輩のために役立ててほしいと多くの寄付が寄せられ、集まった十二万円の浄財が、十月二十八日に小林校長立ち会いのもと、渡邊一桜会会長から佐戸川同窓会会長に手渡されました。寄付金は同窓会を通じて在校生の学校活動に役立てられます。

東高等学校への期待を込めて、今後の発展を心よりご祈念いたします。これからも地域に根ざし、未来を担う若者たちを育てる場として、ますます輝かしい歴史を刻んでいくことを願っております。同窓会としても、母校の発展に寄与できるよう、様々な活動を通じて支援を続けてまいります。

た教職員の皆様、保護者の皆様、そして何よりも卒業生の活躍があつてのことと心より敬意を表します。同窓会としては創立五〇周年を関係各位とともに歴史を振り返り、喜びを分かち合う機会を設けたいと考えております。その節はご協力とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

最後にありますが、後輩生徒

の皆さんを含め同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。これからも福島県立福島東高等学校の一員として、共に歩んでまいりましょう！



福島東高等学校一期生「一桜会」還暦を祝う会

<事務局より>

今後、同窓会の開催について、同窓会報やホームページ等を通じてお知らせを掲載することが可能です。事務局までご一報いただければと思います。

2期生同窓会の開催について

令和7年11月開催予定(詳細は未定)

今夏に通知予定

*宛先不明者の情報を東高同窓会事務局にお寄せください

*個人情報 は2期生への連絡以外に使用しません

文責 今野充宏(2期生・元同窓会事務局)

「変革の時」

福島東高等学校長 小林 寿 宣



同窓会会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対してご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今、教育界は大きな変革の時代を迎えています。背景としては、福島県の学力向上はもちろんとして、深刻なのは、学校を支える主体である「教員」を志す人材の減少により、学校の教育力の低下が懸念されることです。教職が敬遠される理由としては、教員の多忙化があり、ひいては学校という職場のブラックイメージが挙げられます。このような中、教員の働く場所としての学校の在り方や教育課程を見直していこうという機運が全国的に高まり、福島県においても第7次福島県総合教育計画において、『個人と社会のWell-being（一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）の実現』

を「目指すべき姿」として掲げ、『学びの変革』と『学校の在り方の変革』を両輪とした改革を進めようとしています。『Well-beingの実現』には、もちろん教員も含まれています。

変革の動機は東高にも存在します。現在、本校では1日7時間の授業を週5日間実施しており、生徒たちには、授業に予習をして臨み、学習内容を復習して定着させることを期待しているわけですが、アンケート等により、生徒たちが十分な授業の準備や振り返りができていない実態が明らかになっています。さらに、7校時目の終了後に残された教員の勤務時間は、30分程しか残されておらず、次の授業の準備や役割分担された業務、会議、部活動を行う十分な時間はありません。すなわち、生徒も教員も時間的な余裕がないというのが現状なのです。この状況は、日頃からの対話不足を生み出し、学校の改善にも手が付けられない悪循環となり、『変われない学校』を作り上げてしまふ懸念があります。

これが、新しい学校を創っていくという東高の動機です。

一方で、学校を取り巻く教育界は、近年大きく変化しており、例えば、2020年度まで実施された大学入試センター試験に代わって、『大学入学共通テスト』が導入され、また、今年1月に実施された共通テストから教科「情報」の試験が新たに加わっています。さらに、大学では、「探究的な学び」などの取り組み状況などが評価される『総合型選抜（小論文や面接などで、高校時代の主体的な学びを中心に人物を評価する選抜制度）』を実施する大学の数や定員に対する割合が増加傾向にあります。子どもたちは、試験の成績ばかりでなく、「自分自身が世のためにどのように貢献できるのか」、「そのために、どのような実践を行ってきたのか」が重要視される厳しい時代になっています。このように学校が取り組むべき課題が山積する中で、学校が停滞し現状が変えられないのだとすれば、事態は重症だと言えます。

これらを背景にして、現在、東高は令和7年度入学生から授業を1日6時間とする教育課程改革を行っています。同時に、東高の教育活動全体を見直し、

再構築に取り組んでいます。その一環として、『学力向上ビジョン』として、次の3つの事項を「教育活動の柱」として掲げました。1つ目の柱は「探究活動の充実」です。探究活動とは、自分あるいはグループで設定したテーマについて、調査・実践、分析、まとめ、発表などの過程を繰り返しながら、考えを深めていく教育活動であり、テーマを深く追究できること、さらに、探究の過程で、人とのコミュニケーション力や表現力などの力をはじめ、学校で学んできたあらゆる教科の力が必要とされる活動です。鍛えることから、その充実を図ってまいります。2つ目の柱は「見えない力の育成」です。「見えない力」とは、数字では表すことの難しい、「 \sim が好き。 \sim したい。」という主体的な感情やチャレンジ精神などの力であり、社会を生き抜くための「たくましさ」とも言える力です。本校では、これまでも「文武両道」を掲げて育み、鍛えてきたという実績がありますので、部活動はもとより、学校の教育活動全体で一層強化してまいります。3つ目の柱は、「7時間目の時間の有効活用」です。現在、ワーキングチームを組織して、これまでの7校時目の時

間（これからは放課後の時間）を有効活用するため、検討を重ねております。暫定的な案ではありますが、少々紹介いたしますと、「生徒との面談を教育活動の中心においた指導体制の構築」を目指す方向で検討しています。大学などの上級学校に進学するためには、進路目標を見定め、効果的な学習方法を確立しつつ、学習時間を確保するといった3要素が重要ですが、その3要素を向上させるためのアプローチが「生徒の面談（対話）」であるというのがコンセプトです。これまでにない新しい挑戦ですので、今後、さらに検討を進め、県内外に誇れる、先進的な東高を創造していく考えです。

結びになりますが、東高は今、「変革の時」を迎えています。ご紹介しました私たちの挑戦は、皆様方の応援なくしては成り立ちません。改めて、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、これからの東高の発展にご期待いただければ幸いです。

令和5年度 歳入歳出決算書

歳入金額	5,437,211円
決算金額	4,085,523円
差引残額	1,351,688円

1. 歳入 ▲は増加 単位：円

項目	5年度予算額	5年度歳入額	比較増減額	備考
入会金	1,398,000	1,398,000	0	6,000円×233人
会費	1,398,000	1,398,000	0	6,000円×233人
前年度繰越金	1,738,998	1,738,998	0	
雑収入	102	120,066	▲119,964	利息(¥66)、総会会費(¥120,000)
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	782,147	17,853	クレジット(¥167,874)・コンビニ(¥472,792)郵便(¥141,541)
合計	5,335,100	5,437,211	▲102,111	

2. 歳出

項目(科目)	5年度予算額	5年度決算額	比較増減額	備考
総務費	160,000	17,000	143,000	
会議費	150,000	13,000	137,000	役員会旅費
旅費	10,000	4,000	6,000	全国大会激励金贈呈式、同窓会入会式
需用費	0	0	0	
総会費	50,000	279,150	▲229,150	
運営費	50,000	279,150	▲229,150	
事業費	445,100	383,370	61,730	
卒業記念品費	190,100	184,060	6,040	卒業証書ホルダー
広告費	155,000	130,340	24,660	野球、サッカー、バスケット等の応援広告
サイト運営費	100,000	68,970	31,030	
会報費	680,000	661,155	18,845	
印刷費	600,000	583,275	16,725	会報印刷費
名簿管理費	80,000	77,880	2,120	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	1,450,000	1,357,298	92,702	
会報郵送費	1,400,000	1,334,141	65,859	会報発送費
通信費	50,000	23,157	26,843	連絡用はがき通信費
在校生支援費	2,000,000	975,550	1,024,450	
在校生支援事業	1,000,000	975,550	24,450	全国大会激励金、定期演奏会等補助、部活動委員会支援
公開文化祭後援費	0	0	0	
特別会計事業	1,000,000	0	1,000,000	
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予備費	150,000	12,000	138,000	会費等返金
合計	5,335,100	4,085,523	1,249,577	

* 項目科目間の流用を認める。

令和6年度 歳入歳出予算書

歳入金額	4,985,800円
歳出金額	4,985,800円
差引残額	0円

1. 歳入 ▲は減少 単位：円

項目	6年度予算額	5年度決算額	比較増減額	備考
入会金	1,392,000	1,398,000	▲6,000	6,000円×232人
会費	1,392,000	1,398,000	▲6,000	6,000円×232人
前年度繰越金	1,351,688	1,738,998	▲387,000	
雑収入	112	120,066	▲119,954	預金利息
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	850,000	782,147	67,853	東高応援基金より
合計	4,985,800	5,437,211	▲451,411	

2. 歳出

項目(科目)	6年度予算額	5年度決算額	比較増減額	備考
総務費	147,000	17,000	130,000	
会議費	100,000	13,000	87,000	役員会旅費
旅費	10,000	4,000	6,000	入学式・卒業式等の役員旅費
需用費	1,000	0	1,000	
事務局費	36,000	0	36,000	
総会費	0	279,150	▲279,150	
運営費	0	279,150	▲279,150	
事業費	420,000	383,370	36,630	
卒業記念品費	190,000	184,060	5,940	卒業証書ホルダー
広告費	150,000	130,340	19,660	野球、サッカー、駅伝、バスケット等の応援広告
サイト運営費	80,000	68,970	11,030	
会報費	680,900	661,155	19,745	
印刷費	600,000	583,275	16,725	会報印刷費
名簿管理費	80,900	77,880	3,020	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	1,520,000	1,357,298	162,702	
会報郵送費	1,500,000	1,334,141	165,859	会報発送費
通信費	20,000	23,157	▲3,157	返信用はがき後納、切手等
在校生支援費	1,800,000	975,550	824,450	
在校生支援事業	1,000,000	975,550	24,450	上限年額100万円の支援
公開文化祭後援費	0	0	0	
特別会計事業	800,000	0	800,000	上限年額100万円の支援
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予備費	17,900	12,000	5,900	会費等返金
合計	4,985,800	4,085,523	900,277	

* 項目科目間の流用を認める。

今後の同窓会報について（お知らせ）

同窓会会員の皆様へ向けて重要なお知らせがございますので必ずご一読ください。

今回で第21号の同窓会会報を発行し、現在1万を超える会員の皆様にお手元に郵送で会報をお届けしております。しかし、昨年10月に郵送料の値上げ、物価高の影響による印刷費の値上げがあり、会報の発行に際して膨大な費用がかかっております。

そのため、昨年度の役員会で議題に上げ、今年度の役員会でも検討を進め、今後の同窓会報の発行、発送を含めた同窓会報の在り方について以下に記載のとおりとしたいと考えております。なお、このことについてご理解をいただければ幸いです。

【今後の同窓会報について】

①今年度（令和7年3月発行分）はこれまで通りの複数ページの冊子形式での発行、郵送で会員お一人お一人に発送する。

※同窓会報の在り方に関する記事の掲載

②次年度（令和7年12月発行予定分）より、記事内容を縮小したダイジェスト版（A4版）を発行し、郵送する。また冊子形式の完成版は「デジタル版会報（仮）」として同窓会専用ホームページに掲載。在校生分のみ印刷。

※試行版としてダイジェスト版を作成し郵送しますが冊子版は郵送しない（予定）

会員の皆様より御意見をいただきながら郵送についても検討。

③令和9年3月発行予定分より、会員向けとしては「デジタル版会報」へと完全移行。在校生分のみ印刷。

※あくまで予定ですので、今後の役員会、総会において決定していきます。

「東高応援基金」

協賛者名

(敬称略)

※()は卒業期、()は旧姓

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙または同窓会のサイトにてお願いいたします。その際、おわかりになっていければ、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

卒業生

尾形信裕(1)尾形幸男(1)阿部宗弘
(1)伊藤雅信(1)菊地浩二(1)森隆行
(1)西山尚利(1)遠藤勝利(2)佐藤健
一(2)津田克也(2)阿部浩行(2)斎藤
正機(2)穴戸佐寿(2)小野浩樹(2)阿
部友寿(3)紺野信幸(3)志村正(3)丹
野信幸(3)山田昌信(3)佐久間真二
(3)西條正美(3)丹治典良(3)鈴木友
彦(3)氏家祥市(4)大井学(4)佐々木
正則(4)松本重明(4)渡辺政彦(4)宗
形和人(4)星達雄(4)三津間崇(5)遠
藤治(5)菅野正之(5)菅野晃弘(5)古
関啓(5)緑上淳一(5)宮本隆(5)渡邊
裕哉(5)秋葉忠義(5)鈴木秀行(5)齋
藤(古関)徹(5)遠藤直人(6)桂山
洋幸(6)鈴木一義(6)丹治紀昭(6)穴
戸敢一(7)渡部泰史(7)佐藤仁一(7)
中村(半澤)孝雄(7)東城幸治(8)
安齋晃(8)梅宮克美(9)佐藤浩規(9)
鈴木哲也(9)鈴木勇人(9)保科輝之
(9)細野昌芳(9)丹治章近(9)渡辺剛
(9)上原拓司(10)内山武(10)紺野正
人(10)佐藤温史(10)林容市(10)渡辺剛
智(10)河内正和(11)澁木拓城(11)根本
一幸(11)齋藤譲(12)久富伯夫(12)熊田
教平(13)嶋原健二(13)渡辺寿路(13)川
勝庸史(13)秋葉征典(14)阿部善重(14)
嶋原克彦(14)廣野功二郎(14)宮本教
広(14)木幡健一(14)安藤正希(15)菅野
達樹(15)佐藤光太郎(15)菅野元樹(15)
橋本真(16)樋口裕子(16)渡辺俊介(16)
三浦佑一郎(17)木内(佐瀬)智紀
(18)斎藤聡(18)谷内雅一(18)竹内礼子

(18)榎(後藤)千佳(18)菊田雄一郎
(19)佐藤幸恵(20)羽田真幸(20)渡邊雅
敏(20)田村大信(20)熊本昇太郎(21)齋
藤広彰(21)佐藤宏樹(22)塩谷卓也(22)
千葉悠太郎(22)伊達孝典(23)菅野貴
文(24)國分優佳(24)鹿江(阿部)真
理子(25)佐久間健太(26)千代間祥之
(26)塩谷昌之(27)古山彩佳(27)松浦由
樹(27)三浦崇悦(28)平栗由香(28)西谷
地利穂(30)大貫秀人(31)豊田大智(31)
佐藤大輔(32)渡辺聡(32)金子耕也(32)
鈴木蓮(33)大和田裕日子(34)加藤沙
和子(35)長谷川遼(35)鈴木あきよ(35)
奥崎綾介(37)中村理子(39)安齋由一
郎(41)

旧職員 鈴木浩一、渡辺州、加
賀美静男、相楽新之助、西勝文
夫、丸山正好、穴戸路枝、原隆
弘、星一彰、齋藤和也、吉田豊
彦、二瓶晃一

一般個人

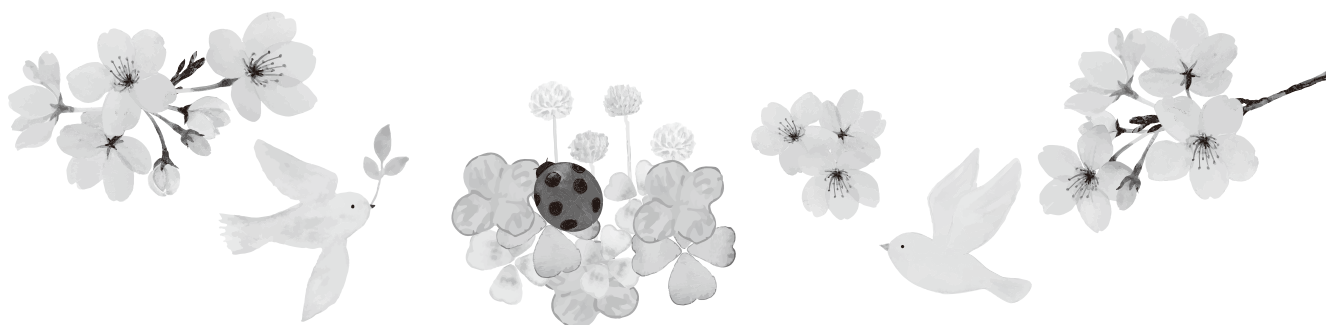
◎ 令和六年四月一日から(同
窓会のサイトからのお振り込
みについては令和五年十月か
ら)現在までに振り込みが
あった方を掲載しました。保
護者名で振り込まれた場合は
生徒名で報告させていただきます
ました。この場をお借りして
厚く御礼申し上げます。氏名
等の誤りがありましたら、事
務局までご一報下さい。

東高校応援基金について

同窓会では、東高校応援基金によりいただいた資金をもとに在校生支援事業を行っております。同封の振込用紙に加え、同窓会サイトよりWeb上で決済いただけるようにもしております。QRコード先のリンクから応援基金のページへ移動できますので、ご活用ください。



21期生の熊本昇太郎様が令和6年5月19日にご逝去されました。その後、本校への感謝という気持ちからご遺族様より30,000円を応援基金としていただきました。なお、ご遺族様から同窓生の歌川裕規様を通じてお振込みいただきました。熊本様の御冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族様、歌川様にも感謝申し上げます。



福島東高校の卒業生から学ぶ

パリパラリンピックに参加して

福島県立大笹生支援学校教諭
二階堂俊介(十三期生)

皆さん、はじめまして。私の東高での思い出といえば、やはり部活動です。バスケットボール部に所属し、チームメイトと日々を楽しみながらもきつい練習を乗り越え、チーム全員でウインターカップの出場を勝ち取った喜びは今でも鮮明に覚えています。その後、大学でも競技を続け、卒業後は、イギリスでの障がい者ボランティア活動などを経て、福島県立特別支援学校の教員となり、今年で22年となります。初任校として郡山市にある体の不自由な児童生徒が学ぶ、郡山支援学校に赴任しました。保健体育の授業の中で車いすバスケットボールと出会い、同じ時期に偶然、日本代表合宿を見学する機会がありまし

た。そこで見た選手たちは様々な困難や障がいがありながらも、表情の荒々しさや車いすのコンタクトの激しさなど、緊張感のある練習を目の当たりにして、勝手に想像していた「障がい者スポーツ」の概念が壊れ、車いすバスケットボールにのめり込んでいきました。その後、審判員として携わるようになり、教員生活の傍ら「ライフワーク」として審判活動をしていきます。国内での活動を経て、2017年に中国・北京での審査会で国際審判員となり、2018年ハンブルグ世界選手権、2021東京パラリンピック、2022年ドバイ世界選手権等に審判員として招集されました。大会期間中は全て英語でのコミュニケーションとなり、基本的には一人での渡航・移動となります。また、初めて会う他国の審判員と数週間ルームメイトになることも多々あります。そのような中でやはり必要となってくるのは国際感覚と英語力だと思っています。他国の審判員たちと円滑にゲームを進めていくためには「遠慮」や「謙遜」が仇となってしまうこともあり、自分の意

見をしつかり伝えることもとても重要になってきます。さまざまな国の文化や生活習慣を知り、互いに認め合い、尊重することも大切だと感じています。また、語学力の向上は今でも課題となっていますので、英語の学習を続けています。学生時代にもっとしつかり勉強していれば、と今更ながら後悔しています。

そして昨年9月、目標としていた2024パリパラリンピックに審判員として参加することができました。各国から招集された20名のリストに自分の名前があり、喜びと同時に日本の代表としての責任を感じたこと覚えています。約10ヶ月前に選出の内示のメールが国際連盟から入り、大会に向けて、オンラインでのミーティングや各種手続きを進めました。オンラインでのミーティングは時差があるため、早朝や深夜の時もあり時間調整が少し大変でした。同時に国内の大会に積極的に参加し研鑽を積み、準備を進めました。パリ市内にあるベルシエアリーナという車いすバスケットボールの会場は、数週間前に閉幕したオリンピックのバスケットボールと同じ会場で、コートもそのまま使用しました。一パ

スケットボールファンとして、NBAのスター選手たちがプレーした同じコートに立てることに喜びを感じました。

車いすバスケットボールは、ドイツやスペインなどではプロリーグもあるなど、欧米では特に人気のある競技です。東京パラリンピックの際は新型コロナウイルス感染症の影響で無観客となっていましたでしたが、今回のパリ大会では毎回約1万5千人の大観衆の中、ゲームが展開されました。担当した地元フランスドイツのゲームの審判の際は地響きのような応援の中で、今まで経験したことのない忘れられない体験となりました。東京大会が有観客だったから、さらに素晴らしい大会になったのだろーと感じました。

大会では女子準決勝など7試合を担当しました。最終日には無事に任務を務めることができた安堵感と同時に、自分の中で目標としていた「メダルマッチ」の担当を達成することができなかった悔しさを



覚えた大会でもありました。大会で感じたこと、体験したことなどを勤務先の児童生徒等にも伝えていきながら、新たな目標に向けて、これからも取り組んでいきたいと思っています。

終わりに、パリ大会期間中は、選手村の中の審判員の宿舎での共同生活でした。選手村内では、各国、各競技団体の選手やスタッフ、また、様々な障がいのある方々と交流を深めることができました。オリンピック・パラリンピック選手村は人種や宗教、障がいやジェンダーなど、正に様々な「多様性」が共存していた場所でした。これらの「多様性」を互いに認め合い、変に意識することなく、当たり前に「共生社会」がさらに広まってほしいと思います。

進路

進路指導主事

遠藤 順一

令和五年度の国公立大学合格者は九十八名でした。主な大学への合格者数は、福島大学二十四名、山形大学十三名、新潟大学十名、宮城教育大学六名、岩手大学四名、宇都宮大学四名、福島県立医科大学七名でした。また、国公立大学中後期試験では、最後まで学習を継続した成果が十五名合格という結果につながりました。私立大学に関しては、三百七名（延べ人数）が合格しました。昨年同様、国公立大学・私立大学の推薦入試（学校推薦型・総合型選抜）に多くの生徒が挑戦しました。

四年前に「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に移行しました。また、二千十七年三月に告示された新学習指導要領は、現三年生（二十二年年度の高校入学生）から導入され、今年度はプログラミングや情報セキュリティの基礎などを学ぶ「情報Ⅰ」が全学年で必修科目となる完成年度となりました。

30年前18歳人口はピークで200万人でした。現在18歳人口

は100万人です。18歳人口はこの30年間で半分に減少しました。30年前4人に1人しか4年制大学に進学しませんでした。

現在2人に1人は4年制大学に行くようになりました。30年前日本全国の大学数は500校でした。現在は800校あります。大学はこの30年間で300校も増えました。進路室には毎日いくつかの大学の広報担当者が訪れます。入試制度、そのほか、奨学金、留学制度など熱心に話をしています。大学側は大学の存続をかけて学生集めに必死です。30年前と現在では教育も変わりました。30年前の教育はジグソーパズル型です。正解主義型、正解に向かってジグソーパズルをあてはめていくようなイメージです。一方、現在の教育はレゴブロックのイメージに近いかもしれません。一人ひとりが違った色や形で立体物をつくりあげるようなイメージです。教育が変わっただけでなく、学習や進路に対しての指導も変化しました。「興味関心が大切、やりたいことをみつけ、それを極めなさい」という指導に変わりました。もちろんその考え方や指導を否定はしません。しかし、徐々にその言葉が一人歩きして違う解釈が生まれてきてい

(表) 大学別合格者数 (令和5・4・3年度入試)

	大 学 名	令和5年度生	令和4年度生	令和3年度生
国 公 立 大 学	北見工業大	0	1	1
	北海道教育大(函館)	0	2	0
	室蘭工業大	0	0	2
	弘前大	1	1	0
	岩手大	4	0	0
	東北大	1	0	0
	宮城教育大	6	3	1
	秋田大	3	2	1
	山形大	13	9	16
	福島大	24	28	30
	茨城大	2	3	1
	筑波大	1	1	0
	宇都宮大	4	2	0
	埼玉大	4	1	1
	新潟大	10	4	6
	富山大	0	0	1
	信州大	1	0	0
	島根大	1	0	0
	釧路公立大	0	1	1
	青森公立大	0	1	1
	岩手県立大	3	1	1
	宮城大	2	1	0
	秋田県立大	1	1	0
	山保健医療大	1	0	0
	会津大	1	1	2
	福島県立医大	7	12	8
	前橋工科大	0	1	0
	新潟県立大	1	0	0
	高崎経済大	4	1	0
	群馬県女子大	1	0	0
	長岡造形大	0	1	1
	都留文科大	4	1	0
	長野大	0	4	1
	静岡文芸大	1	0	0
	鹿屋体育大	0	1	0
	その他	0	0	0
	計	98	84	75

	大 学 名	令和5年度生	令和4年度生	令和3年度生
私 立 大 学	仙台大	1	2	5
	東北学院大	62	46	82
	東北福祉大	26	33	45
	東北医薬科大	5	1	8
	宮城学院女子大	5	7	21
	東北芸術工科大	1	2	6
	国際医療福祉大	5	8	11
	白鴎大	16	12	29
	獨協大	5	2	1
	文教大	3	1	1
	女子栄養大	1	0	2
	神田外語大	1	3	2
	淑徳大	3	1	5
	青山学院大	2	1	1
	亜細亜大	1	2	0
	北里大	1	1	0
	国土館大	0	2	0
	駒澤大	0	1	0
	専修大	3	0	3
	大東文化大	7	1	12
	玉川大	1	1	1
	中央大	1	1	2
	帝京大	2	3	2
	東海大	19	14	15
	東京工科大	1	0	0
	東京農業大	3	2	12
	東洋大	6	8	1
	日本大	26	16	17
	早稲田大	1	1	2
	法政大	1	1	3
	明治大	2	2	1
	明治学院大	1	0	0
	神奈川大	1	4	6
	新潟医療福祉大	1	8	2
	同志社大	2	2	2
	その他	91	82	143
	計	307	271	443

※令和4年度卒業より6クラス

42期総括

42期学年主任 佐藤 道郎

◇はじめに

福島東高校四十二期生が卒業して、早くも一年が経とうとしています。この原稿を書いているのは今年度の共通テストの直前。共テ前日の緊張した四十二期生たちの顔が鮮明に思い出されます。見事に自分の目標を達成し、晴れて志望校に合格、入学した人。悔しい思いを噛みしめ不本意ながらも今の大学を選んだ人。捲土重来を期して浪人を選択し、二度目の大勝負の前で不安と緊張に押し潰されそうになっている人。同じ学び舎から巣立ちながら、四十二期生の選んだ道は多岐に渡ります。みんな、元気でやっていますか？今の生活は充実していますか、楽しいですか、時が経つのは早いですか？それとも、苦しんでいますか、悩んでいますか、迷っていますか？我々四十二期担任団は、君たちの進路選択と決定にどれほど力になったでしょうか。決めるの君たち自身だとは承知しながらも、あの時君たちにおくったアドバイスは本当に今の君たちに役立っているのか、受験本

番の季節を目の前にして自問自答する日々です。「総括」と言うほど大げさなものではありませんが、せっかくだいだいた機会なので四十二期がどんな学年だったのかを振り返ってみたいと思います。

◇学習・進路指導について

令和二年に十七年ぶりに戻った母校は、かつての東高と気質こそ違わねど、以前のような学習意欲むき出しに教師にぶつかってくる生徒がほとんど見られず、おとなしくただただ受け身で学習させられている生徒ばかりという印象を強く持ちました。比較的高倍率の入試を勝ち抜き、東高生となった四十二期生も同様でした。基本的な生活習慣がきちんと身につく、気持ちよい挨拶ができ、清掃などの活動にも主体的に取り組める「東高生」としての美質は備えつつも、学習意欲に乏しく進路意識も希薄な生徒が多く見受けられました。まがりなりにも「進学校」としての実績を四十年余り積み重ねてきた歴史が「東高に入れば（自然とどこかの国公立）大学に合格できるんじゃないか」といった勘違いを生徒にもたらしているのではないかと思わされました。なので、まずは先輩たちは東高に入学してから血の

滲むような努力を積み重ねて目標を達成してきたという事実をきちんと生徒に伝えることから始めました。そして目標なき努力は虚しいだけであり、早くから明確な進路目標を持つことを、集会、ホームルーム、学年通信などで繰り返し強調しました。とりわけ学年通信（DreamExplorer）は二ヶ月に一回程度のペースで、通算二十回以上発行しました。学年主任の勝手な一人語が多かったのですが、学年として生徒諸君に今伝えるべきこと、伝えなければならぬことを文字化して届けました、細かすぎで読む気が起こらない！と保護者の方からお叱りを受けたこともあります。が、学年団共通の指導方針を伝えるツールとして有効だったと（手前味噌ながら）思っています。

学習指導に関して、四十二期がこれまでの学年と大きく変えた点はありません。常に進路委目標を意識させながら、日々の授業を大切に、教科間のバランスを考えた朝学習や課題、課外や模試を設定することで、一（二年次で英数国の基礎基本の定着、三年次は理社を加えた総合的な入試対応力の養成を図ってきました。四十二期生の多く

は、素直で何事にもひたむきに真摯に取り組む東高伝統の美点を備えていました。結果として前年度を上回る国公立大学合格者数を挙げることを可能にしたのは、「授業を大切に」「課題をきちんと提出する」「課外や模試は休まない」といった『平凡なる非凡』を体現できた生徒が多かったからと今では確信しています。

◇総合探究と行事について

推薦入学者が五割を上回る現行の大学入試では、いわゆる推薦入試に当たる総合型・学校推薦型選抜でいかに希望する生徒を合格へと導くかが三年二学期の最大のミッションとなります。厄介なのは、昨今の推薦入試が以前のように部活動や生徒会活動の実績が特筆すべきストロングポイントにならないということです。高校で授業や校内での活動以外に、何をテーマとして何を主体的に学んできたか、それを語れなくては志願理由書にも面接にも対応できません。カギとなるのは、課題解決能力や将来の生き方を考える力を身につけることを目標とした「総合的な探究の時間」で、学年として何を生徒に示し、与えることができるかだと考えました。一年次はグループ単位での活

るように思えます。つまり、「やりたいくないものはやらなくていい」「本人がやりたいことがある大学や専門学校を選択するのが一番いい」と私たちは自分に都合よく解釈することがあるように思えます。ぜひ考えたいのは、「学習とは大半がやりたいくないもののように思えるけどやる価値のあるものである」「やりたいうことがあっても大学や専門学校といえど聞こえがいいですが、本当にそれだけでいいのか」ということです。

昭和から平成、令和へと時代は移り、教育に求められるものも大きく変化しています。前述のような教育・入試制度の変化、進路選択の広がりや働くことに対する価値観の多様化に伴うさまざまな課題が山積する中、東高も変化を求められています。東高生には、これからの社会を生き抜いていけるタフな人材を目指してほしいと思います。東高生一人ひとりの力をより伸ばすために、これからの東高はどうあるべきかを考え、さまざまなことに躊躇なくチャレンジしていきたいと思っています。

動が多く、書籍を読んだ内容やSDGについて考えたことを発表(クラス内↓学年全体)したり、伝承館訪問の感想を動画にまとめたりと、体験を他者と共有し、言語化してプレゼンする能力を養ってきました。二年次は「福島の課題を考える」というテーマのもと、原発処理水の問題を新地町の漁師さんと経産省の担当者という異なる立場にある当事者の話を聴き、自分たちなりの考えをまとめさせました、また、修学旅行での広島における平和学習のため、事前松岡俊二先生(早稲田大学)と宮本ゆき先生(米デューボール大学)に講話をいただき、平和記念資料館見学の後には被爆者である切明千枝子さんの話を聴くことで、震災原発事故以降、福島島の逃れられない呪縛となっている放射能の問題について、様々な考えに触れながら考察を深めていくことができました。

また、一月に実施した学問探究講座では、九人の先生をお招きしそれぞれの専門分野の先輩の貴重な講義をしていただきました。中でも「子どもの貧困」で講義された『子ども食堂・吉井田キッチン』を主催する江藤大裕さんには、たくさんの四十二期生をボランティアとして引き受けていただきました。三年次は二年間の総探で学んだことを論文の形でまとめました。一年次からイベントごとの感想は必ずグーグルフォームで入力させ、そのたびごとにそれぞれが入力した内容や感想アンケートの回答などをしつこいくらいに生徒にフィードバックしてきました。そのため、自分の意見を率直にかつ相手の立場を尊重しながら伝える、アサーティブなコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身についた生徒が多かったように思います。総探で学んだことを武器に推薦合格を勝ち得た生徒も少なくありませんでした。四十二期の総合探究を全面的にコーディネートしてくれたのが高橋洋充先生でした。浪江町出身の洋充先生の緻密な企画力と幅広い人脈があつてこそ、充実した探究の学びができたことを申し添えておきます。

行事はコロナの影響もほとんどなく、つつがなく実施できました。ただ二年次の二期は、八月公開文化祭、十月秋季スポーツ大会、十一月マラソン大会と修学旅行と、大きな行事が盛り沢山すぎて生徒は高校生活を思い切り満喫できた反面、地に足がつかないまま受験0学期を迎えることとなりました。受験態勢の雰囲気作りはかなり手を焼いたことを覚えています。唯一コロナの影響を感じた場面は、修学旅行の二日目、大阪・奈良・神戸・徳島・滋賀とバラエティに富んだ選択コースを示したのに、二三名(学年の九四%)の生徒がユニバーサル・スタジオ・ジャパンを選んだ時でした。中学の修学旅行がコロナによって中止となり、千葉の敵を大阪で討とうとした生徒が多かったようです。大阪三連泊で九千円の補助があり、大喜びで日本最大級のテーマパークを楽しんでいる生徒たちを脇目で見ながら、五十代のオヤジには苦痛でしかなかったあの一日も今となってはいい思い出です。(と一応言っておきます。)

◇おわりに

東高四十二期担任団の高橋洋充先生、栗村弥生先生、川崎かおり先生、渡邊一広先生、赤塚玲先生、三年間副担任を務めてくださった佐々木勝宏先生、一年副担任でお世話になった木村翔太郎先生、二年副担任の濱崎晋先生、三年副担任の佐藤伸郎先生、佐藤直子先生、皆さんとチームを組めたことは私にとって何よりも幸運であり、天恵だと思っています。そして四十二期生を指導

し支えてくださった東高全ての先生方に心から感謝申し上げます。私自身、東高一期生として母校で教員キャリアの最後に四十二期の素晴らしい生徒諸君の担任をすることで、教員としての究極のリア充を味わうことができました。

東高二十期代の輝かしい実績を目の当たりにしてきた、国公立大合格者数原理主義の私は「東高のレゾナデール(存在意義)」は国公立大学の合格者数である！」と主張したくなる気持ちを抑えて、生徒が自らの希望する進路を一人でも多く達成してくればそれでいいというスタンスで学年担任団と四十二期生に接してきたつもりです。(あくまで自分では、です。担任団には無自覚のうちに有形無形のプレッシャーをかけてしまったかもしれない。結果として推薦を含めた国公立大学合格者数は九十八名となり、四十二期生は過去のレジェンダリーな先輩学年にも決して引けを取らない素晴らしい健闘を見せてくれました。

ここで冒頭の問いに戻ります。東高四十二期の卒業生の皆さん、君たちは今、充実した生活を送れていますか？ 頑張っ

て苦労して手に入れた「今」がこんなはずじゃなかったと不満を感じている人もたくさんいるでしょう。でも「今」は時限付きの「今」であって、「今」の後には果てなく長く続く「未来」があります。その「未来」のために、たとえ「今」がどんな「今」であっても「今」を大切に悔いなく生きてください。人間の成長過程の中でも最もかけがえのない三年間をこの学び舎で共に過ごした我々担任団は、四十二期生の栄光をいつまでも祈っています。



東北・全国大会出場報告

新しい伝統

テニス部顧問 梅宮 康弘

過去二年、来年こそはという文面でしたが、晴れて全国大会出場報告をさせて頂く喜びを噛み締めております。また、同窓会様には過分なご支援を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

今年の全国高校総合体育大会は大分県大分市レゾナックテニスコートをメイン会場に、8月2日～4日団体の部、8月5日～8日個人の部が開催されました。男子団体は、17年ぶり2度目の出場。個人戦シングルスは、昭和61年国分君、平成25年菅野君、同29年渡辺祐希君に続き本校4人目の出場。個人戦ダブルスは本校生としては初出場となります。

団体1回戦の相手は山口県代表の誠英高校。全国大会にも出場経験のある1年生2人の活躍で山口県大会を勝ち上がった相手です。2面同時展開が始まったダブルスとシングルス1の試合。お互い初めての全国大会の団体戦ということで硬さが見られました。特にダブルスの齋藤

蓮斗（3年）菊地英介（3年）

は、自分たちが勝利しなければ勝ちがないというプレッシャーからいつもの躍動感が見られませんでした。しかし、相手の緊張感も高く、徐々にペースを取り戻した本校ダブルスペアが、6―2でインターハイでの勝利をもぎ取りました。シングルス1の佐藤琉成（3年）は、ファーストゲームのゲームポイントを取り逃したところか大きく、硬さがあつた相手が徐々に本来のプレーを出し始め、良いストローク戦を展開するも、要所で相手の力強いショットに対応しきれず2―6で敗退。シングルス2の市川偉大（3年）は、調子を崩していたこともあり、本来の粘りのテニスに精度を欠き、対戦相手の1年生らしい外連味のないテニスに対応しきれず1―6で敗退。計1―2で全国大会を終えました。敗退はしたものの、3年生にとつて、1年次から主力で戦ってきた集大成を全国大会という晴れ舞台で終えたことは本当に素晴らしいことです。

個人戦シングルス1回戦は、全国大会常連校の岐阜県麗澤瑞

浪高校の選手。佐藤も自分の武器であるフォアハンドストロークでポイントを取ろうと頑張りますが、サービス・フォア及びバックハンドストロークの強度・精度とも相手選手が高く、1―6で敗戦。内容は競るもののゲーム取得までは至らないという、本県選手に足りないところが浮き彫りになった試合でした。個人戦ダブルス1回戦は、佐賀県鳥栖商の選手。本校選手・対戦相手ともに、アジャストできないままゲームが進んでいきましたが、パワーに勝る相手が少しずつ調子を上げていき、抗しきれずに3―8で敗退しました。全国大会の数日間を通して、全国で勝つためには何度か全国大会を経験していなければならぬと感じさせられましたが、本校選手は立派に戦い抜きました。まさに、新しい伝統を切り開いた選手たちです。

続いて、第47回全国選抜高校

テニス大会東北地区予選会の報告をします。第4シードとして

出場し、2回戦青森工業に3―

2で勝利。ここではシングルス

3島貫夏成（1年）が、相手との

壮絶な粘り合いの末勝利して

3回戦にコマを進めることがで

きました。全国大会出場権をか

けた日大山形との準決勝は、シ



ングルス1の加藤柊羽（2年）が相手エースを破り貴重な1勝をもたらしたものの、ダブルス1・2とシングルス2が敗退し1―3で敗退。フィードバックインコンソレーションに回りました。全国大会出場数は4、勝てば出場に前進する戦いです。対戦相手は青森山田で、本校相手にシングルス1とダブルス1・2で勝とうとする布陣でした。勝負のかかるシングルス1で加藤は惜しくも4―6で敗退してしまいました。ダブルス1黒津星斗（2年）伊藤綾汰（2年）が序盤から怒涛の攻撃を見せ、少し追いつかれたものの最後は押しきり、6―3で貴重な勝利を収めました。ダブルス2伊藤瑠

威（2年）須田悠斗（1年）は相手の攻撃を止められず1―6で敗退しましたが、シングルス2太田泉（2年）シングルス3島貫が実力通りの勝利をおさめ、3位決定戦は仙台三高相手に0―3で敗れましたが、出場枠内の4位で大会を終えました。選抜大会なので、2月の会議を待つ必要がありますが、5位校6位校に勝つての4位ですので入れ替わることはないと思われ、10年ぶり4回目の出場は濃厚です。現3年生が築いた新しい伝統は下級生にしっかりと引き継がれていると思います。

次年度も同窓会の皆さまに良い報告ができるよう、慢心せず良いスピリットを維持して、新しい伝統を引き継いでいってほしいと思います。

令和6年度全国高等学校

総合文化祭書道部門

（ぎふ大会）出場報告

今年度の活動成果

書道部顧問 郡司 仁美

令和6年8月1日～3日、岐阜県で開催された全国高等学校総合文化祭の書道部門に、2年生の佐藤歌音が福島県代表として出場してまいりました。佐藤



▶令和6年度全国高等学校総合文化祭書道部門(ぎふ大会)
2年 佐藤歌音「臨 魏霊像造像記」



▶福島県高等学校総合文化祭書道展準大賞
1年 武田明香里「臨 蘭亭序」

は高校に入学してから書道をはじめ、中国六朝時代の楷書の古典『魏霊像造像記』に魅了され、毎日熱心に向き合っていました。横二尺(60cm)×縦八尺(240cm)の紙面に書いた素直で迫力のある大字の書は、昨年度の福島県高等学校総合文化祭書道展で大賞を受賞し、全国総文の県代表に選出されました。全国総文の展覧会会場は岐阜県の下呂交流会館でした。会場には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の漢字作品、また仮名作品等、300点の作品が陳列されており、紙や墨までこだわった表現力の豊かな作品で溢れていました。全国レベルの質の高さ、作品に込めた思いが見て取れ、感銘を受けました。交流会では各県代表の生徒たちと親睦

を深め、情報交換をすることができました。また、作品の合評もあり、自分の考えを言語化し相手に分かりやすく伝える場面もありました。最後の講評会では、講師の先生から「鋭い起筆と収筆で古典の力強さと剛筆さを表現した作品である」とのお褒めの言葉をいただくことができました。

その他、今年度の活動成果として、令和6年11月に行われた福島県高等学校総合文化祭書道展で、1年生の武田明香里が準大賞の結果を残し、次年度の全国高等学校総合文化祭書道部門がわ大会への出場権を得ました。全国大会へのバトンが繋がれていること、嬉しく思います。また第69回福島県たなばた展で、3年の高橋朋美

が隸書作品で大賞を受賞しました。今年度は特に個々の作品のレベルアップが見られ、第48回福島県書道連盟展では、団体で文部科学大臣賞を頂くことができました。

現在書道部は7名で活動しています。今後も書の本質や魅力を考えながら、自身の書作品の質を高めていける活動を目指し、引き続き毎日の練習に取り



▶第69回福島県たなばた展 大賞



第48回福島県書道連盟
展団体賞文部科学大臣賞

組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、日々の活動に対するご理解やご協力に感謝いたします。全国総文祭への参加にあたりましては、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後もご支援くださいますようお願いいたします。

繋がるはずのない樺

陸上部顧問 馬場 大

今年度、陸上競技部は、6月東北インターハイ(福島市)、9月東北新人大会(青森市)、11月東北高校駅伝大会(花巻市)の3つの東北大会に出場いたしました。9月の東北新人大会では2名出場、両選手とも決勝進出し賞状を手に入れました。現在、その生徒を含む3名が、県強化選手として選抜されており

ます。また、1年生の齋藤周真(110mH)は2月の大坂室内陸上大会へのエントリーが決まり、全国の強豪とレースをしてまいります。11月の東北高校駅伝では女子5区間1、3年生までの選手が快走を見せてくれましたが、紆余曲折ありましたので、昨年度の県駅伝大会からのエピソードを書きたいと思います。

一昨年前の駅伝県大会では現3年生の菅野(すげの)、氏家がけがに泣きました。直前に開催された東北新人大会への出場権を得るほど2名は個人で力をつけておりましたが、特に氏家はけがで棄権し、涙をのみました。その年の駅伝県大会では4区に菅野、5区に氏家を配置。1区渡辺(現3年)3区までの選手だけ走り、1区を走る予定だった菅野が4区で樺を受け、途中で棄権する予定でした(大会運営の皆様すみません)。

私はゴール地点の業務を行いながら、目の前を通り過ぎる3区選手に声をかけ、そろそろ棄権の連絡が入る頃だと思っていました。が、なかなか連絡が来ません。そうこうしているうちに5区氏家が足を引きながらコースを走っている姿が小さく見えました。4区菅野は樺を受け

▶東北高校駅伝大会 (花巻)



て、そのまま5区氏家に繋いでしまったのでした。来ないはずの菅野が襷をかけて走ってきたので氏家はゴール目がけて走り出したのでしよう。後日談ですが、「走らない選択肢はありませんでした(菅野)。」来ると思っていました(氏家)。」という話を聞いて、あらためて選手の純粋さを大切にしなければならぬ、そして起こるべき事態は全て想定しておかなければならぬ、とつくづく思いました。それから彼女たちが3年生になって日常生活や練習への取り組みが一段と輝きを増し、質の高いものへと変わっていったのは言うまでもありません。今回の大

▶東北新人大会 (青森市)



会は、3年生の走りに加え1、2年生のメンバーも区間上位のタイムを出し、見事東北大会を決めてくれました。余談ですが、私は東北大会出発日と担任業務の修学旅行の出発日が同日だったため、年度当初から駅伝で東北大会を決めた場合は修学旅行へ行かざるを得ないと公言していました、が、泣いて喜ぶ選手の姿を見てしまったので、大会現地でレースに送り出してから関西へ飛ぶことにしました。校長先生はじめ関係の職員の方々には感謝の言葉しかありません。

しながら懸命に努力をしております。惜しくも上位大会に進めなかった選手、自己ベストを出しながらも課題を新たにみつけないかと思っております。選手には成長曲線の話をします。今日取り組んだことが明日結果となって現れるわけではないし、努力したことが必ず報われるわけではない。日々誠実に過ごして、いろいろな失敗を繰り返していくことで、力がつき、「その日」は予想しない時にやってくる。曲線となって上向きに伸びるチャンスは必ず全員にあるが、「その日」が来るまでの我慢や工夫の時間が必要だ、という内容です。陸上以外の場面でも通用する言葉を選手たちに伝えながらこれからも一緒に考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会の皆様よりご支援をいただき、厳しくも充実した時間を過ごすことができております。次年度は全国大会出場のご報告できるよう精進して参ります。今後とも応援のほどよろしく願いたします。

第76回全日本合唱コンクール 東北支部大会出場報告

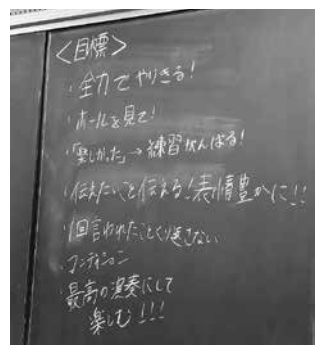
合唱部顧問 佐藤 朋子

令和6年9月20日、仙台銀行ホールイズミティ21において第76回全日本合唱コンクール東北支部大会が行われ、本校合唱部は福島成蹊高校と合同合唱団として出場しました。2020年以来の東北大会出場となり、憧れの舞台に立つ生徒たちの表情は誇らしげで輝いていました。

コロナ禍以降、全国的に合唱人口が激減しており、今年度は本校も部員数4名でのスタートとなりました。全日本合唱コン



クールの規程では6名以上が参加資格であり、今年度は特設部員を加え、さらに福島成蹊高校と合同合唱団として参加の運びとなりました。6月上旬に顔合わせを行い、初めは緊張していた部員たちも練習を重ねることに仲良くなっていきました。部員



員のほとんどが合唱初心者であったため、歌うことの基本から学ぶ必要がありました。合唱は姿勢、呼吸法など発声以前の段階で必要な知識があります。部員たちはつまずきながらも、その一つ一つを繰り返し練習し、少しずつ伸び伸びとした発声を身に付けていきました。

自由曲に選んだ「序・泣いているきみ」は6声部、アカペラ部分あり、語り口調ありの難易度が高めの曲です。全体を通

して疾走感があるので、歌いながら言葉をしつかりと立てる必要がありました。部員たちは果敢に練習に臨みましたが、なかなか形になりません。一つのことを注意すると、以前言われたことを忘れてしまいます。「背伸びし過ぎたか」と後悔することも度々ありましたが、部員たちは毎日楽しそうでした。知らない景色を初めて見るようなキラキラとした目で歌っているのです。結果なんてどうでもいい。自分たちの後悔しない音楽をお客様に届けよう。その想いで臨んだ福島県合唱コンクールで銀賞を受賞。東北大会に出場を決めました。

東北大会後に1年生男子が入部し、現在は3名で活動しています。女声合唱から混声合唱へ。この先の東高合唱部がどのように変化していくか顧問としても楽しみです。今後とも変わらぬ応援をどうぞよろしくお願いいたします。

続・トキは来た！

(東北大会出場報告)

柔道部顧問 佐々木勝宏

昨年度の同窓会報において、佐渡の朱鷺の如く絶滅の危機に瀕しながらもしぶとく生き残り、東北大会出場を果たした柔

道部の活躍について報告させていただきました。本年度も厳しい現状は変わりなく、現在は二年生一名と一年生二名の計三名で伝統の灯を絶やさぬよう、細々と柔道修行に勤しんでおります。

せめて、柔道家である顧問の私が稽古で胸を貸せばよいのですが、身体がボロボロでそれもままなりません。ということと、週末毎に、その手に握るはずの柔道衣をハンドルに握り変え、加齢のため擦り減って消失した膝軟骨の代わりに愛車のタイヤを擦り減らし、県内外各地へ出稽古行脚を敢行しました。こうした地道な努力の甲斐あって、高橋至(一一四)が県新人大会と全国高校選手権県予選において二大会連続で決勝に進出し、東北大会出場を果たすことができました。

ということで、一月二十五日(二十六日)に秋田市で開催されました第四十七回全国高等学校柔道選手権大会東北地区大会の御報告をさせていただきます。

一回戦の相手は、岩手県三位、花巻東高校(ご存じ大谷翔平選手の母校)の千葉選手。花巻東高校は前日の団体戦にも出場しており、千葉選手はチームの中心選手として活躍していまし



り」となり、「東高対決」を制しました。

二回戦では、前日の団体戦で優勝した宮城県東北高校(これまたダルビッシュ有選手の母校)のキャプテンでありポイントゲッターでもある宇井選手との対戦となりました。シードのため初戦となる宇井選手は慎重な立ち上がりを見せますが、徐々にエンジンがかかりま

た。組手は右の相四つです。長身の相手に対して引手で相手の釣手を落としながら試合を組み立てていきたいところですが、緊張のため動きが硬く、相手に奥襟をつかまれてしまう展開が多くなりました。序盤、もつれて寝技の展開となり、稽古で磨いた「噛みつき」のテクニクで抑え込みかけましたが、あと一歩で逃がしてしまいます。そのまま両者ともに技を打ち合いますが決め手なくタイムアップとなり、延長戦に突入しました。本戦では左の一本背負投を連発しておりましたが、ここで相手の虚を突き右の一本背負投をかけると、これが見事にハマります。相手が横転して「技あ

ンカ四つ。相手の巧みな組手に高橋技が出せず、消極的として「指導」のペナルティを与えられます。その後は相手の技を何とかかわし、寝技のチャンスもありましたが抑ええることはできません。試合中盤になると宇井選手は更にギアを上げ、奥襟をつかんで圧をかけながら大内刈を繰り返します。高橋これをこらえ切れず「技あり」。試合終盤、逆転を狙って接近戦を挑みますが、得意の隅返しで裏返しにさせられ「一本」を献上してしまいました。敗れはしましたが、強敵相手に臆することなく果敢に挑み、次に繋がる敗戦となりました。

今後も高橋には、厳しい環境

に屈することなく、更なる高みを目指し、心折れずに日々精進を重ねることを期待します。最後となりましたが、今後も後輩たちへの御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会のますますの御発展を祈念申し上げ、大会出場報告とさせていただきます。



令和六年度 部活動報告

紙面の都合上、地区大会優勝、県大会以上の結果を掲載しております。地区大会も含めた全結果は福島東高校のホームページに掲載いたします。

●運動部

野球部

▼第76回春季東北地区高等学校野球福島県大会(5月18日)
1 回戦 対ふたば未来高校 2―3

▼第106回全国高等学校野球選手権福島大会(7月12日18日)
1 回戦 対小高産業技術高校 10―3

2 回戦 対福島商業高校 4―12

▼第76回秋季東北地区高等学校野球福島県大会
(9月13日～9月23日)

1 回戦 対白河 6―1
2 回戦 対会津工業 9―3
3 回戦 対学法石川 0―11

サッカー部

▼令和6年度 福島県高等学校体育大会
1 回戦 1―0 安達
2 回戦 2―0 安積

準々決勝 0―2 学法石川
準第103回全国高校サッカー選手権大会
3 回戦 1―0 福島高専
4 回戦 1―0 日大東北
準々決勝 0―2 尚志

▼令和6年度 福島県高等学校体育大会新人県大会
2 回戦 4―0 安積
準々決勝 2―2 郡山
(PK 4―2)

準決勝 1―2 学法石川
3 位決定戦 1―2 帝京安積

▼U18福島県サッカーリーグ2024
1 部

第1節～18節 7勝9敗2分
対いわきFC 第1節 2―0
0―0, 第10節 0―2×
対東日本昌平 第2節 2―0
0―0, 第11節 1―0
対尚志サード 第3節 0―1×, 第12節 0―2×

対帝京安積セカンド 第4節 0―0△, 第13節 0―2×
対学法石川 第5節 1―2×, 第14節 0―4×

対ふたば未来学園 第6節 2―3×, 第15節 2―1○
対福島ユナイテッド 第7節 1―5×, 第16節 0―3×

対郡山 第8節 2―1○, 第17節 1―1△
対福島工業 第9節 2―0○, 第18節 3―2○

▼福島県高等学校体育大会県大会
学校対抗 女子

1 回戦 3―0 郡山東
2 回戦 3―1 喜多方
3 回戦 0―3 磐城第一
(ベスト8)

卓球部

男子シングルス
高橋…3 回戦敗退
(ベスト32)

植野…2 回戦敗退
横山・橋内…1 回戦敗退
女子ダブルス
横山・橋内…3 回戦敗退
(ベスト16)

植野・高橋…1 回戦敗退
福島県総合スポーツ大会卓球競技県大会
団体女子
1 回戦 3―2 平商業
2 回戦 3―2 相馬総合
3 回戦 3―2 郡山商業
準決勝 0―3 桜の聖母
結果 第3位

女子シングルス
高橋…3 回戦敗退
(ベスト32)

植野…2 回戦敗退
横山・橋内…1 回戦敗退
女子ダブルス
横山・橋内…3 回戦敗退
(ベスト16)

植野・高橋…1 回戦敗退
福島県総合スポーツ大会卓球競技県大会
団体女子
1 回戦 3―2 平商業
2 回戦 3―2 相馬総合
3 回戦 3―2 郡山商業
準決勝 0―3 桜の聖母
結果 第3位

女子シングルス
高橋…2 回戦敗退
植野・飯田・菅野…1 回戦敗退

男子シングルス
穴戸…1 回戦敗退
令和6年度全日本卓球選手権大会福島県予選

男子ジュニアシングルス
穴戸…2 回戦敗退
女子ジュニアシングルス
植野…1 回戦敗退

高橋…1 回戦敗退
高橋…2 回戦敗退
飯田…1 回戦敗退

女子ダブルス
植野・高橋…1 回戦敗退
山崎・飯田…1 回戦敗退
菅野・高橋…1 回戦敗退

福島県高等学校新人体育大会
学校対抗男子
1 回戦 0―3 帝京安積

学校対抗女子
1 回戦 3―2 磐城桜が丘
2 回戦 2―3 会津

男子シングルス
齋藤…1 回戦敗退
女子シングルス
高橋…3 回戦敗退
(ベスト32)

植野…2 回戦敗退
飯田…2 回戦敗退
女子ダブルス
植野・高橋…2 回戦敗退

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤…1 回戦敗退
女子シングルス
高橋…3 回戦敗退
(ベスト32)

植野…2 回戦敗退
飯田…2 回戦敗退
女子ダブルス
植野・高橋…2 回戦敗退

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

男子シングルス
齋藤周真
女子
110 m H 齋藤周真
400 m H 佐藤華音
200 m 障害 菅野心花(3名)

男子
100 m 準決勝 鈴木孝成
200 m 予選 鈴木孝成
400 m 準決勝 大越郁拓
800 m 準決勝 阿部聖哉
1500 m 準決勝 大越郁拓
5000 m 予選 森大車
110 m H 4 位 齋藤周真
400 m H 8 位 丹野龍汰
300 m 障害 予選 佐藤陸斗
予選 飯沼颯人

B円盤投
10位 佐藤よしひろ
4*400m R 予選
島田遼平・大越郁拓
石川龍誠・芳賀洸太
女子
B 100m 8位 大宮怜禾
A 3000m 4位 菅野心花
10位 渡辺娃夢
A 300nH 12位 氏家千尋
4*400m R 6位 佐藤華音
大宮怜禾・山田美桜
小野莉奈・佐藤華音
▼第64回福島県高等学校新人体育大会陸上競技
令和6年9月7日(土)～9日(月)いわき陸上競技場 ※PB・自己新記録 SB・今季ベスト記録
男子110m H 齋藤周真
女子400m H 佐藤華音
以上2名東北大会出場権獲得
男子
800m B決勝8位 大越郁拓
予選 阿部聖哉
1500m 予選 森 大隼
予選 佐藤陸斗
5000m 決勝 森 大隼
飯沼颯人
110m H 1位 齋藤周真
400m H
B決勝3位 芳賀洸太
3000 S C 決勝 森 彩隼
砲丸投 13位 佐藤よしひろ
4*100m R 予選
佐藤暖希・島田遼平
芳賀洸太・本多瑛貴
4*100m R 予選
佐藤暖希・大越郁拓

芳賀洸太・島田遼平
女子
400m 5位 大宮怜禾
800m 6位 山田美桜
1500m 決勝 山田美桜
森香乃音
3000m 決勝 森香乃音
400H 3位 小野莉奈
4*100m R 5位 佐藤華音
三品 結・大宮怜禾
山田美桜・佐藤華音
▼第29回東北高等学校新人陸上競技選手権大会
男子 110m H
第3位 齋藤周真
女子 400H
第7位 佐藤華音
▼令和6年度 福島県高等学校駅伝競走大会
男子 第9位
細田光祐・石川龍誠
森 大隼・森 彩隼
阿部聖哉・飯沼颯人
佐藤陸人
女子 第4位
菅野心花・渡辺娃夢
氏家千尋・森香乃音
山田美桜
▼第60回東北高等学校駅伝競走大会
女子 第18位
菅野心花・渡辺娃夢
氏家千尋・森香乃音
山田美桜
▼バスケットボール部男子
▼第70回福島県高等学校体育大会バスケットボール競技
1回戦 福島東73―81帝京安積 (5/25)

▼2024福島県U18バスケットボールリーグ戦 県2部リーグ
(7/20、7/28、9/22、9/29、10/6)
第1節 福島東67―76いわき
総合、福島東70―66
若松商業
第2節 福島東46―81郡山北
工一、福島東52―77
福島成蹊
第3節 福島東92―60いわき
光洋、福島東81―61
相馬
第4節 福島東69―59会津
入替戦 福島東82―77磐城桜が丘 1部昇格
▼第61回福島県高等学校バスケットボール選手権大会バスケットボール選手権大会 (10/26、28)
1回戦 福島東61―53清陵情報
2回戦 福島東87―77磐城桜が丘
3回戦 福島東64―104帝京安積
ベスト8
▼令和6年度福島県高等学校新人体育大会バスケットボール競技(1/11、12)
1回戦 福島東67―54郡山
2回戦 福島東71―58会津北嶺
3回戦 福島東32―106帝京安積
ベスト8
▼バスケットボール部女子
▼第70回福島県高等学校体育大会バスケットボール競技 (5/25)
1回戦

福島東70―50いわき湯本
2回戦 福島東22―110帝京安積
▼第77回福島県総合スポーツ大会バスケットボール競技 (7/6)
1回戦 福島東68―74会津学鳳
▼2024福島県U18バスケットボールリーグ戦 地区リーグ(7/21、7/27、9/23、9/28)
第1節 福島東73―40小高・相馬、福島東88―66
相馬総合
第2節 福島東143―35福島北、福島東44―62安達
第3節 福島東94―19伊達達
第4節 福島東62―60相馬総合、福島東46―84安達(第4節はすべて交流戦を実施)
▼第61回福島県高等学校バスケットボール選手権大会選手権大会 (10/26、28)
1回戦 福島東71―57小名浜海星
2回戦 福島東24―100福島東稜
▼令和6年度福島県高等学校新人体育大会バスケットボール競技(1/11、12)
1回戦 福島東54―69磐城一
▼バレーボール部男子
▼第70回福島県高等学校体育大会バレーボール競技県大会
1回戦 対会津 0―2 (17/25、18/25)
▼第77回福島県総合スポーツ大会バレーボール競技少年の部

県大会
1回戦 対磐城0―2 (17/25、19/25)
▼令和6年度福島県高等学校新人体育大会バレーボール競技
1回戦 対安積 2―0 (25/12、25/19)
2回戦 対会津学鳳 2―0 (25/19、25/21)
3回戦 対白河 0―2 (17/25、12/25)
結果 ベスト8
▼バレーボール部女子
▼第70回福島県高等学校体育大会バレーボール競技
1回戦 福島東2―0葵
2回戦 福島東1―2磐城・高
▼福島県総合スポーツ大会バレーボール競技少年の部
県大会
福島東0―2磐城
▼第58回福島県高等学校新人体育大会バレーボール競技
県大会
1回戦 福島東2―0帝京安積
2回戦 福島東0―2郡山女子大学附属
▼テニス部
▼第41回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会
U16男子ダブルス
2位 加藤柊羽・島貫夏成
ア(東北大会出場)
U18男子ダブルス
2位 齋藤蓮斗・菊地英介
ア(東北大会出場)
3位 太田泉(他校生) ペア
ベスト8
佐藤琉成・市川倅大ペア

▼第41回福島県春季ジュニアシングルステニス選手権大会
U16男子シングルス
6位 島貫夏成
7位 加藤柊羽
U18男子シングルス
1位 佐藤琉成
(東北大会出場)

5位 市川偉大
7位 太田 泉

▼第70回福島県高等学校体育大会県大会(5/31-6/2)
あづま総合運動公園・インテックテニスガーデン
男子団体
2回戦 3-0 平工業
3回戦 2-0 安積
準決勝 2-0 福島
決勝 2-0 いわき湯本

1位 (全国大会東北大会出場)
男子個人シングルス
1位 佐藤琉成
(東北大会・全国大会出場)

3位 市川偉大
5位 太田 泉
7位 齋藤蓮斗
(以上東北大会出場)

男子個人ダブルス
1位 佐藤琉成・市川偉大ペア
(全国大会・東北大会出場)

2位 太田泉・加藤柊羽ペア
3位 齋藤蓮斗・菊地英介ペア
(以上東北大会出場)

女子団体

2回戦 2-1 須賀川桐陽
3回戦 0-2 郡山
(ベスト8)

▼第65回東北高校テニス選手権大会(6/15-17) あづま総合運動公園テニスコート
男子団体
1回戦 0-3 日大山形
男子個人戦シングルス
佐藤琉成
1回戦 6-4 (聖愛)
2回戦 6-3 (仙台高専)
3回戦 2-6 (仙台第三)
(ベスト8)

市川偉大
1回戦 2-6 (岩手)
太田 泉
1回戦 0-6 (青森山田)
齋藤蓮斗
1回戦 3-6 (青森)
男子個人戦ダブルス
太田泉・加藤柊羽ペア
1回戦 7-5 (青森山田)
2回戦 1-6 (東北学院)
佐藤琉成・市川偉大ペア
1回戦 2-6 (日大山形)
齋藤蓮斗・菊地英介ペア
1回戦 1-6 (日大山形)
7/6-8 いわき市平テニスコート

▼第77回福島県総合体育大会(7/6-8) いわき市平テニスコート
I部男子シングルス
2位 加藤柊羽
3位 太田 泉、島貫夏成
I部男子ダブルス
2位 太田 泉・加藤柊羽ペア
3位 島貫夏成・黒津星斗ペア
I部女子シングルス
3位 田村優歩
I部女子ダブルス

ベスト8
田村優歩・袖山春花ペア
II部女子ダブルス
2位 菅野結菜・高橋麗花ペア
2024全日本ジュニア東北予選
18歳以下男子シングルス
佐藤琉成
1回戦 8-6 (青森工)
2回戦 8-5 (日大山形)
3回戦 2-6、1-6 (相馬) (ベスト8)

18歳以下男子ダブルス
齋藤蓮斗・菊地英介
1回戦 3-8 (青森・八工大二)
16歳以下男子シングルス
島貫夏成
1回戦 3-8 (日大山形)
16歳以下男子ダブルス
加藤柊羽・島貫夏成
1回戦 6-8 (青森山田)
令和6年度全国高等学校総合体育大会(8/1-8) 大分市レゾナックテニスコート
男子団体 1-2 誠英(山口)
男子個人戦シングルス
佐藤琉成
1回戦 1-6 麗澤瑞浪
(岐阜)
男子個人戦ダブルス
佐藤琉成・市川偉大
1回戦 3-8 鳥栖商
(佐賀)

▼第58回福島県高等学校新人テニス大会(10/5-7) 郡山市庭球場
男子団体/予選トーナメント
2回戦 5-0 郡山北工
3回戦 5-0 会津工

決勝リーグ
1回戦 5-0 安積
2回戦 4-1 日大東北
3回戦 4-1 福島成蹊
(1位) 東北大会出場
女子団体/予選トーナメント
1回戦 3-1 郡女大附
2回戦 3-2 福島商
決勝リーグ1回戦
2回戦 2-3 安積
3回戦 2-3 郡山
2回戦 2-3 日大東北
3回戦 2-3 日大東北
(第3位)

男子個人戦シングルス
2位 加藤柊羽
3位 太田 泉・島貫夏成
ベスト8 黒津星斗
女子個人戦シングルス
3位 田村優歩
2回戦敗退 菅野結菜
第47回全国選抜高校テニス大会東北地区大会(10/26-28)
新青森県総合運動公園テニスコート
トーナメント
2回戦 3-2 青森工
3回戦 1-3 日大山形
フィードインコンソレーション
3回戦 3-2 青森山田
フィードインコンソレーション
4回戦 0-3 仙台第三
(第4位) 全国選拔出場
▼第51回福島県ダブルステニス選手権大会(1/11-12)
いわき市平テニスコート
男子
3位 加藤柊羽・太田 泉
(東北大会出場)
ベスト8
島貫夏成・黒津星斗

ベスト16
伊藤瑠威・伊藤綾汰
女子
ベスト16 田村優歩・袖山春花・菅野結菜・高橋麗花
▼第44回福島県春季選抜ジュニアシングルステニス選手権大会(1/25-26) 南相馬市テニスコート
18歳以下男子
2位 島貫夏成
(東北大会出場)
ベスト8
太田泉・黒津星斗
ベスト16 加藤柊羽
18歳以下女子
3位 田村優歩
(東北大会出場)

ベスト16 菅野結菜
▼第75回福島県春季ハンドボール選手権大会
1回戦 福島東29-21 日大東北
2回戦 福島東33-21 尚志
準々決勝
福島東21-23 日大東北
総合順位・ベスト8
▼第70回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技
2回戦 福島東46-16 郡山北工
3回戦 福島東18-21 郡山
▼第77回福島総合体育大会ハンドボール競技
1回戦 福島東26-34 童星安積
令和6年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技
2回戦 福島東31-18 郡山
3回戦 福島東30-21 日大東北
準決勝 福島東20-39 学芸石川
男子シード順位決定戦

ハンドボール部

▼第75回福島県春季ハンドボール選手権大会
1回戦 福島東29-21 日大東北
2回戦 福島東33-21 尚志
準々決勝
福島東21-23 日大東北
総合順位・ベスト8
▼第70回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技
2回戦 福島東46-16 郡山北工
3回戦 福島東18-21 郡山
▼第77回福島総合体育大会ハンドボール競技
1回戦 福島東26-34 童星安積
令和6年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技
2回戦 福島東31-18 郡山
3回戦 福島東30-21 日大東北
準決勝 福島東20-39 学芸石川
男子シード順位決定戦

福島東21―17安積

総合順位…第3位

▼第48回東北高等学校ハンド
ボール選抜大会県代表決定戦
リーグ戦

福島東19―30学法石川

福島東20―26福島工業

福島東29―24安積

総合順位…第3位

バドミントン部

▼第70回福島県高等学校体育大
会バドミントン競技

女子団体出場

須賀川創英館3―2福島東

男子ダブルス出場

茨木蒼士郎・菅野凌央組

村上浩太郎・吉田樹組

女子ダブルス出場

尾形美咲・高橋綾乃

男子シングルス出場

佐藤潤一

女子シングルス出場

高橋綾乃

▼令和6年度福島県総合体育大
会バドミントン競技

男子ダブルス出場

大内悠剛・佐藤琉琥

男子シングルス出場

佐藤琉琥

▼第61回福島県高等学校新人体
育大会バドミントン競技

男子ダブルス出場

佐藤琉琥・八島大輝組

大内悠剛・木村洸太組

女子ダブルス出場

橋本るる・青砥倫子

男子シングルス出場

佐藤琉琥・八島大輝

柔道部

▼福島県高等学校体育大会

(男子) 団体戦 2回戦敗退

個人戦 60 kg級

2回戦敗退 佐藤宗太郎

個人戦 81 kg級

ベスト8 清野誠康

1回戦敗退 高橋 至

▼福島県総合スポーツ大会

(少年男子) 先鋒(60 kg以下)

2回戦敗退 佐藤宗太郎

中堅(90 kg以下)

ベスト8 清野誠康

2回戦敗退 高橋 至

▼福島県高等学校新人体育大会

(男子) 団体戦 2回戦敗退

個人戦 60 kg級

2回戦敗退 佐藤宗太郎

個人戦 66 kg級

1回戦敗退 岡田輝瑠

個人戦 73 kg級

第2位 高橋 至

▼全国高等学校柔道選手権大会

福島県大会

(男子) 団体戦 1回戦敗退

個人戦 73 kg級

第2位 高橋 至

※東北大会出場

剣道部

▼第70回福島県高等学校体育大
会剣道競技

(男子) 団体 ベスト8

(女子) 団体 ベスト16

▼第77回福島県総合スポーツ大
会剣道競技

(女子) 団体 ベスト16

(男子) 団体 出場

▼令和6年度福島県高等学校新
人体育大会剣道競技

(男子) 団体 ベスト8

個人 鴨田遥希 2回戦敗退

(女子) 団体 1回戦敗退

▼令和6年度福島県高等学校選
抜剣道優勝大会

(男子) 団体 ベスト16

(女子) 1回戦敗退

弓道部

▼第53回福島県弓道遠大会

女子の部 団体 第1位

福島東A(本田夢歩、齊藤
果歩、遠藤 結)

個人 第2位 齊藤果歩

第4位 渡邊愛菜

▼第70回福島県高等学校体育大
会県北地区大会 弓道競技

女子個人 優勝 高橋美月

▼第77回福島県総合スポーツ大
会弓道競技(少年の部)

男子団体 近の競技 第4位

福島東(宍戸幸樹、藤田隼
安、岸村凜音)▼令和6年度 第70回福島県高
等学校体育大会登山大会(安
達太良連峰) 令和6年5月29
日(水)〜6月1日(土)

男子・福島東A

(柳田 朔・安藤悠馬・宮澤
風太・鈴木光士郎)

優秀パーティ

福島東B

(酒井大輝・小野裕斗・高橋
司馬・飛鳥嘉希)

優秀パーティ

女子・福島東A

(齋藤すみれ・菅原惟可)

優秀パーティ

▼文化部

吹奏楽部

▼第41回定期演奏会 5月4日

(金)【ふくしん夢の音楽堂】

▼第43回福島県高等学校総合文
化祭(音楽部門)第74回福島県高等学校音楽学
習発表会 6月21日(金)【け
んしん郡山文化センター】▼第62回福島県吹奏楽コンクー
ル 8月3日(土)【けんしん
郡山文化センター】 銀賞

合唱部

▼第43回福島県高等学校総合文
化祭(音楽部門)第74回福島県高等学校音楽学
習発表会 6月20日(木)【け
んしん郡山文化センター】

▼第22回定期演奏会 8月16日

(金)【ふくしん夢の音楽堂】

▼第78回福島県合唱コンクー
ル 8月30日(金)【けんしん郡山
文化センター】 銀賞▼第76回全日本合唱コンクー
ル 9月20日(金)

【仙台銀行ホールイズミティ21】

▼第41回福島県声楽アンサンブ
ルコンテスト 12月14日(土)

【ふくしん夢の音楽堂】

奨励賞

▼第17回 日本高校ダンス部選
手権 新人戦 東日本大会

スモールクラス 千葉ポート

アリーナ 4月2日(火)

▼第18回 ダンス部発表会

福島テルサ「福島市」7月30

日(火)・7月31日(水)

▼第17回 日本高校ダンス部選
手権 バトルトーナメント

東日本大会 J・COMホー

ル八王子「八王子市」12月26

日(木)

美術部

▼第78回福島県総合美術展覧会

青少年美術奨励賞 県教育長賞

阿部 夏芽

▼第25回高校生国際美術展

奨励賞 佐藤なる海

入選 阿部夏芽

写真部

▼令和6年度福島県高等学校文
化連盟写真専門部

県北地区写真展 佳作

「あいさつ」 佐々木琉聖

書道部

▼第69回福島県たなばた展

個人賞

大賞

たなばた賞

銀河賞

特選 佐藤那奈・実佐藤歌

音・寺島 紗・佐藤

穂泉・佐藤百華

団体賞 高等学校賞

▼第48回全国高等学校総合文化
祭(ぎふ総文2024)

書道部門出場 奨励賞

佐藤 歌音

▼四国大学第53回全国高校書道展

個人賞

特選 佐藤那奈実

準特選

高橋朋美・齋藤ゆうあ・

武田明香里・寺島紗保

入選 佐藤穂泉・佐藤百華

個人賞

▼第21回安芸全国書展高校生大会

入選 齋藤ゆうあ

▼第25回高校生国際美術展

書の部

個人賞

佳作

佐藤那奈実・高橋朋美・
佐藤歌音・齋藤ゆうあ・
武田明香里

団体賞 学校奨励賞

▼第49回ふれあい書道展

個人賞

筆都大賞 半紙の部

齋藤ゆうあ

特選 半紙の部

佐藤那奈実・高橋朋美

武田明香里・佐藤歌音

島 紗保

奨励賞 半紙の部

佐藤穂泉・佐藤百華

▼第48回学芸大書道全国展

個人賞 半切の部

会長賞 齋藤ゆうあ

特選

佐藤那奈実・高橋朋美

秀作

齋藤ゆうあ・武田明香里

佐藤穂泉・佐藤那奈実

佳作

高橋朋美・佐藤歌音・佐

藤百華・寺島紗保・佐藤

那奈実・高橋朋美

那奈実・高橋朋美

▼第40回高円宮杯日本武道館書

道大展覽会

個人賞

日本武道館賞 齋藤ゆうあ

大会奨励賞

武田明香里・佐藤那奈実

特選 高橋朋美・寺島紗保

金賞 佐藤歌音・佐藤穂泉

銀賞 佐藤 百華

▼第29回全日本高校・大学生書道

展―学生書道のグランプリ―

個人賞

準優秀

高橋朋美・佐藤歌音

▼第48回福島県書道連盟展

個人賞 準大賞

高橋朋美・佐藤 歌音

奨励賞

佐藤那奈実・齋藤ゆうあ

団体賞

最優秀団体 文部科学大臣賞

▼第23回岐阜女子大学全国書道

展 個人賞 半紙の部

奨励賞 佐藤那奈実

優秀賞

佐藤歌音・高橋朋美

齋藤ゆうあ

秀作賞

武田明香里・寺島紗保

佐藤穂泉

努力賞 佐藤百華

半切の部

福島県賞 齋藤ゆうあ

優秀賞 佐藤歌音

秀作賞 佐藤那奈実

努力賞 高橋朋美

二八の部

特賞 佐藤歌音

優秀賞 高橋朋美

秀作賞 佐藤那奈実

▼第20回 福島県刻字協会展高

校生作品展出品参加

佐藤那奈実・高橋朋美

佐藤歌音・佐藤穂泉

佐藤百華・齋藤ゆうあ

武田明香里

▼第7回 9・21 世界平和へ

の祈り 和プロジェクト参加

9月21日福島市護国神社作品

奉納 代表

佐藤歌音・武田明香里

佐藤穂泉・佐藤百華

▼第57回福島県高等学校書道展

個人賞 準大賞

武田明香里・佐藤歌音

奨励賞

佐藤那奈実・高橋朋美・

齋藤ゆうあ・佐藤穂泉・

佐藤百華

条幅の部

準大賞

高橋朋美・佐藤歌音

齋藤ゆうあ

奨励賞

佐藤那奈実・佐藤穂泉

佐藤百華・武田明香里

▼第48回全国学生書写書道展

個人賞

記念特別大賞 齋藤ゆうあ

優秀特選 佐藤歌音

特選

佐藤百華・武田明香里

佐藤那奈実

入選

佐藤穂泉・高橋朋美

▼第65回全国書道展

個人賞 半紙の部

全国書美術振興会賞

齋藤ゆうあ

特選 佐藤百華

金賞

武田明香里・佐藤穂泉・

佐藤歌音

銀賞

佐藤那奈実・寺島紗保

条幅の部

特選 齋藤ゆうあ

金賞 武田明香里

銀賞

高橋朋美・佐藤穂泉

▼第33回国際高校生選抜書展

書の中子園

個人賞

秀作賞 佐藤歌音

秀作賞 佐藤歌音

▼第74回全日本学生書道展

個人賞

読売新聞社賞 高橋朋美

学会奨励賞 武田明香里

学会優秀賞 佐藤歌音

秀作賞

佐藤那奈実・佐藤穂泉・

佐藤百華

佳作

寺島紗保・齋藤ゆうあ

▼第63回福島県書道協会展

個人賞

一般公募 青少年奨励賞

武田明香里

佐藤歌音

▼第43回福島県高等学校総合文

化祭書道展

個人賞

準大賞 武田明香里

▼令和7年度第49回全国高等学

校総合文化祭(香川総文2025)

出場

▼第71回大正大学全国書道展

半紙の部

個人賞

特別優秀賞 高橋朋美

金賞

佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

銀賞 佐藤歌音

入選

佐藤那奈実・武田明香

里・佐藤百華

条幅の部

個人賞

特別優秀賞

佐藤歌音・佐藤那奈実

奨励賞 齋藤ゆうあ

銀賞

武田明香里・佐藤百華

入選

高橋朋美・佐藤穂泉

▼第74回全国書道コンクール

優秀賞

佐藤穂泉・齋藤ゆうあ

金賞

武田明香里・佐藤百華

銀賞

佐藤那奈実・佐藤歌音

▼第74回全日本学生書道展

読売新聞社賞

高橋朋美

学会奨励賞 武田明香里

学会優秀賞 佐藤歌音

秀作 佐藤穂泉・佐藤百華

佳作 寺島紗保・齋藤ゆうあ

▼第18回全国高校生刻字展

優秀賞 佐藤百華

秀作賞

高橋朋美・佐藤那奈実

佐藤穂泉

入選 佐藤歌音・武田明香里

齋藤ゆうあ

▼第69回福島県書きぞめ展

大賞 齋藤ゆうあ

準大賞 佐藤百華

書きぞめ賞 佐藤歌音

特選 武田明香里・佐藤穂泉

佐藤那奈実・高橋朋美

団体賞 最中学校賞

令和六年度

部活動を通して学んだこと
教えられたこと

生徒会

私は生徒会活動を通して仲間と協力し計画的に物事を進める大切さを学びました。生徒会活動は一人でできるものではなく、生徒会役員一人一人が責任を持って一つの大きなものを作り上げていくのだと改めて感じました。

生徒会では日々、生徒のみなさんがより過ごしやすい学校生活になるよう生徒のみなさんからの意見に耳を傾け、話し合いをしています。また、生徒会行事の準備や運営もしています。どちらも進めるためには一人ではできません。また、効率よく進めるためにも計画的に進めることも大事です。そのため、生徒会役員全員の力が必要です。

生徒会のどんな活動でも一人ではやりきることができないため、全員で協力してしっかりと計画を立てることが大事だと改めて学びました。これまでの活動の中でもみんなと協力して進めてきましたが、これからの活動ではより早めに計画を立てて協力して活動していきたいと思

います。

(安田陽南)

野球部

私は、福島東高校野球部で主に二つのことを学びました。

一つ目は、仲間の大切さです。日々の練習でつらい時や困難な時期を共に助け合い励まし合って乗り越えてきました。失敗やミスをして困ったときに相談できる仲間がいることで心の支えになりました。そしてこれからも仲間と協力し助け合いながら同じ目標に向かって努力していきたいと思います。

二つ目は、周りに気を配ることです。広い視野を持ちいろいろな事に気づいて行動することです。例えば、先生や先輩などの目の上の人が荷物を持っていたら率先して代わりまわりにゴミが落ちていたら拾うなど自分自ら気づき行動をすることの大切さを学びました。まだまだ周りを見る力が未熟ですが誰かが行動するのを待つのではなく自ら気づき行動できる人になりたいと思います。

卓球部

(中村太二)

私たち卓球部は男子11名女子

サッカー部

とをいかしこれからの人生でも続けていきたいと思っています。(鈴木 諒)

私はサッカー部の活動を通して、全力でやりきることを学びました。

他のスポーツでも同じことが言えますがサッカーの練習は楽しいことだけではありません。身体機能を高めるためのフィジカルトレーニングや、疲れている中での技術を上達させるために厳しいトレーニングを日々行っていました。きつくてつらかったら自分で手を抜いてやることはできません。しかし、結果が出るまで自分自身を追い込み全力でやりきることでは成長することができました。こうして得た全力でやりきることはサッカーだけではなく、様々な分野に活かせると思います。つまり、何事にも全力で取り組むことは自分の可能性を広げることにつながります。

これからの人生にサッカーで培ってきたこの力を多くのことに役立てていきたいです。

陸上部

(六戸健祐)

私は陸上部員としてたくさんの方々に支えられて部活動をすることができました。その中で二つのことを学びました。

一つ目は、仲間の大切さです。私には陸上競技に真剣に向き合い、それぞれ目標を持った仲間がいます。陸上競技は常に競争する競技なので練習でも負けたくないという気持ちが互いを高め合います。

二つ目は、その場の状況に対応することです。競技場が使えない時や雨や雪が降った時、練習できる場所を探し、その時できるメニューを顧問の先生方や副部長と考えました。このような経験を積むことによって、考える力や技術力もつけることができました。

私が陸上部員として過ごせるのは残りわずかとなってしまいました。最後まで自分を成長させてくれる顧問の先生方や仲間への感謝の気持ちを忘れず、これからも過ごしていきたいです。

(島田遼平)

バスケットボール部(男子)

私たちバスケットボール部は、岩倉先生、佐藤先生、栗村先生の御指導のもと、県ベスト8を目標に日々練習に励んでいます。

日々の練習では、全員が声を出して良い雰囲気で行うことを意識しています。また

部活動を通して、挨拶などの礼儀や責任といった人間性を高めることも意識しています。

私たちは素晴らしい環境で部活動をやらせていただいています。それは保護者の皆様の御協力、先生方のサポート、OB・OGの方々の伝統によって成り立っていると思います。私たちは、それを結果で恩返しできるように今後の練習に取り組んでいきたいと思っています。

（佐藤玄基）

バスケットボール部（女子）

私たち女子バスケットボール部は日々の部活動を通してコミュニケーションの大切さを学びました。試合中はもちろんのこと、仲間との声掛けやベンチからの応援など声を出すことで気持ちの持ちようが変わり、いいプレーや勝利に繋がります。

試合で勝利に繋がるのは技術面だけではなく、コミュニケーションがあつてこそだということを改めて実感することができました。また、プレイ中に限らず普段から先輩と後輩の仲が親密になりチームでの団結力が上がりました。

これからもコミュニケーションをとることをこれまで以上に意識して女子バスケットボール

部の目標である県大会2勝を達成できるように頑張りたいと思います。また、支えてくれる保護者の方や先生方、OB、OGの方に感謝を忘れずに1回1回の練習に一生懸命取り組んでいきたいと思っています。（菊地 里）

バレーボール部（男子）

男子バレーボール部は部員31名で日々練習に取り組んでいます。

私たちは平日の練習時間は2時間弱と限られた時間の中で、集中して取り組み、どれ程質の良い練習ができるかを考え練習を行っています。そんな中でもバレーボールの楽しさを忘れず、チームメイト同士協力し合いながら、どの選手も試合に出るためのチャンスを逃さぬよう精進しています。また部活動ではバレーボールだけでなく、礼儀や継続することの大切さを学び、日常生活や勉強の面でも役立て、文武両道のできる部活動になれるような努力もしています。

私たちが毎日部活動をしてきているのは、保護者の方々や先生方、OBの方々の支えがある中で活動できているものだということに感謝を忘れず、県大会ベスト4を目指し県内で渡り合っ

ていけるよう、今後も練習に励んでいきたいと思っています。

（菅野湊太）

バレーボール部（女子）

私たち女子バレーボール部は二年生十一人、一年生九人で部活動に全力で取り組んでいます。部活動で特に学んだのは礼儀です。顧問の阿部秀男先生は私たちに「部活動だけで終わらせるのではなく生活にも活かさなくちゃいけない」とよくおっしゃいます。私たちはその言葉を常に心がけるようにしています。

挨拶はもちろんのこと、周りを見て困っていたら声をかけたり、ゴミが落ちていたら拾ったりするように心がけています。このように部活動を通して周りを見て動く力をつけることができました。

これまで部活動を通じて学んだことを忘れずにこれからも生活していききたいです。そして残り少ない部活動となってしまいましたが、短い時間の中で納得のいく結果を残せるように努力していきます。また、先生や保護者の方々の協力があつてバレーボールをできていることに日々感謝してこれからも頑張ります。

（府野久瑠美）

テニス部

私が部活動を通して学んだことは、行動に意味を持つということです。

一対一のラリー練習や球出しの際に一球一球に意味を持って打つことで、私たちは大会で粘り強いプレーをし、多くの結果を残すことができました。また私は部長という役職を初めて経験し、全員の意見をまとめることはすごく大変でした。しかし、今後の活動において、とても良い経験になりました。

部活動を通して、成長できたことはこの先の人生において役立つと思います。支えてくれる全ての方々に感謝し、誇りと自信を持って未来へ突き進んでいきます。

（加藤柊羽）

ハンドボール部

私は、部活動を通して多くのことを学びましたが、その中でも特に強く感じたことは、話し合うことの大切さです。部活動は同じ競技を行う人の集まりですが、その競技に対する考え方や、思いの強さ、得意不得意は違います。また、たくさんの人と関わるため、人間関係も一概に簡単とは言えません。そのため、部活の練習などで意見が衝

突することもありましたが、話し合うことで、これから部活をどうしていきたいか、そのためにはどんな練習をするかをまとめることができました。私自身、優柔不断なところがあり一人で部活のことを決められず悩んだ時に、チームメイトが話し合ってくれるから部長としてやっていけるのだなと実感することが多いです。そのような一見あたりまえに感じて実はそうではないことに気づかせてくれるのも、部活で仲間と関わっていくことの素晴らしい部分だと思うので、これからも仲間と頑張っていきたいです。

（宍戸郁樹）

バドミントン部

バドミントンを通してまず最初に学んだこと、それはお金がかかりすぎることです。これはバドをやっている人ならわかってももらえると思うんですけど、シャトルがやたらと高いんですよ。安いやつでも2500円ぐらい、いいやつだと5000円ぐらいするんです。しかも高い割には10分位打つとすぐ壊れてしまいます。安いやつはすぐ壊れる上にめっちゃ飛びます。しかもガット代も10000円位するしで気づいたときには

小銭しかなかった、なんてこともあります。

2つ目に学んだことは、めっちゃ練習がきついということ。まずバドミントンはコートの中をめちゃくちゃ動くので体力の消耗が激しいし、夏体育館暑いしでもうやばいです。正直部活サボろうかなとか何回か思いました。だってなんだかんだ言ってバドミントンがめちゃくちゃ楽しいんですね。(佐藤琉琥)

柔道部

私はこれまでの部活動を通して、相手への感謝、チームワークの大切さを学びました。柔道は、相手がいて成り立つ競技であって、一人ではできません。この感謝を柔道だけでなく、日々の生活にも向けていくことで立派な柔道家になりたいと思います。

少人数での活動でチームワークの重要性を学びました。団体戦で三人という厳しい状況で勝つためには、一人一人の技術だけでなく、チーム全体が同じ目標に向かって進むことが大切だと感じました。そのためには、体調管理、けがの防止など一人一人が意識し、日々の練習を大切にしていきたいと思います。

私は、部活動を通してたくさんのかたちを経験し、学びました。残りの期間は短くなってしまうんですが、家族や先生方の期待に応えられるような結果を残せるように、ワンチームで今後の練習に取り組んでいきたいと思っています。(佐藤宗太郎)

剣道部

私は部活動を通して、学んだことがたくさんありました。そのうちのひとつとして仲間を信じて一人の負けだけでチームとしての負けになることがあります。しかし、一人一人が引き分け以上をとり、後ろの仲間になれば必ず仲間が勝ってくれと顧問の先生はおっしゃいました。それはいろいろな大会で経験することができ、私たちは仲間を信じることは大切なことだと強く実感しました。

また、自分で考えることの重要性を学びました。試合構成を考えながら、相手を動かし、それに応じる剣道では稽古の時から様々なことを意識する必要があります。何も考えず、相手に向かっていくようでは少しも得るものはありません。何事でも考えてから行うことで、さらに大きく進歩することに繋がると

思います。

剣道部員として、多くの学びを得たことはこの先必ず役に立つと思います。これからも日々精進していきたいと思っています。(遠藤将大)

弓道部

私が部活動を通して学んだことは、意識することの大切さです。

ただ弓を引くだけでは、どんなに頑張っても良い大会で結果は出ません。その日の目標を決めたり、先生や仲間からのアドバイスを自分の射に活かしていくことが練習する上で重要になります。自分の立が終わったら立の反省をすることや習慣づけ、自分の練習の質を上げることが目標達成への第一歩になります。そして、弓道部全体のレベルアップにつながると 생각합니다。

また、精神力が身に付きました。私は日々の練習や大会で思うような記録が出ず、悔しい思いをした事が何度もあります。一本本的に当たらない事があっても、引きずらず次の射に向けた改善点を前向きに考えることが大切だと思います。努力は報われる、と信じ練習に励んでいます。

私は、部活動を通してたくさんのかたちを学ぶことができました。仲間と先生方への感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきます。(佐藤寧祐)

山岳部

私が山岳部の活動で学んだことは主に二つあり、一つ目は信頼関係の大切さです。

テント建てや登山ルートの確認などを正確かつ迅速に行い、また、山行中にメンバーの異変にすぐ気付けるよう日頃から信頼関係を築いていくことが大事だと思います。

二つ目は主体的に取り組むことです。行程や登山ルートなどの重要な情報を記載する計画書作りを先輩なしで作るとなったとき、作り方の詳細がほぼ分からず、完成したのはとても計画書と呼べるものではありませんでした。そして改めて先輩の偉大さを実感しました。この経験を通して私は説明を聞くにしてもまずは自分で考え、理解しようとし、そこから主体的に取り組んでみるのが、重要だと思いました。

これらの学んだことを胸に刻んで日々部活動に励んでいます。(鈴木光士郎)

吹奏楽部

私は部活動を通して、一人一人が自分の責務を全うすること、そして仲間と支え合うことの大切さを学びました。

コロナ禍が明け、ほとんど全てのが元通りにできるようになりましたが、吹奏楽部人口はかなり減りました。今の私達も2学年合わせて20人しかいません。活動の中で、やれることの範囲も狭くなってきています。しかし、人数が少ないからこそ一人一人が自分の役割を自覚し、足りないところをお互いに補い合って活動を続けています。人数は少ないですが、素敵な仲間と先生方に恵まれて、私は毎日楽しく活動することができています。

私たちが活動できているのは、先生方やOB・OGの先輩方のご支援、ご協力があるからです。部員一同心から感謝申し上げます。先輩方から受け継いだ東高の明るいサウンドをこれからも繋いでいきたいです。引き続き、東高校吹奏楽部へのご支援、ご協力をよろしくお願いします。(鈴木万寿)

合唱部

私は、部活を通して仲間の大切さ、個性の自由さを知ることができました。

私が合唱部に所属した理由のひとつが姉が合唱部に入学していたからです。

ただ、姉がやっていたからという軽い理由で入学しましたが、実際合唱を体験して、チームワークがいかに重要で、コミュニケーションがいかに必要か実感しました。お互いに意見や感想を伝えないと、自分たちの理想の音楽は創れません。合唱とは、自分たちの体を楽器とし、自分たちの思いを『音』として多くの人に伝えることです。各学校、団体で奏でる音楽の共通点、相違点に気づき、読み取り、何を伝えたいのかという意図をくみ取る力が身につきます。

合唱は表現の自由の象徴ともいえるでしょう。

私たち合唱部は、少ない人数ではありますが、皆さんに勇気と温かさをお届けするために日々の練習を大切に活動していきます。

(鈴木千怜)

美術部

私は美術部の活動を通して「人に頼ること」の大切さに気がきました。

私が美術部に入学した際は、一年生部員が私しかいなくて、孤立感を感じていました。元々内向的な性格の私は、クラスでも馴染めず、学校という場所に良いイメージを持っていませんでした。そんなある日、美術部に同じ一年生の子が入部することになりました。最初は上手く話せるか不安でしたが、東京研修旅行を通して互いの作品に対する関係になりました。今までは、一人でなんとかしようと考えがちでしたが、友達に頼ることができるようになり、新たな視点が生まれ、作品の完成度も自然と良くなりました。また、クラスの友達もでき、学校が楽しい場所になりました。

私も二年生となり一年生の後輩がいます。頼れる先輩になれるよう日々努力していきたいです。

(馬目結葵)

写真部

私は写真の奥深さや人前で話すときに気を付けるべきことを学びました。

入部するまでは何気なく写真を見てきて、どこが魅力的なのかわかりませんでした。活動を通して、撮る人の喜怒哀楽といった感情、「これを見せたい、伝えたい!」という熱い思いが1枚の写真に詰まっているように感じました。そしてそれを見る人が、勇気をもらったり、感動したりと心を揺さぶられることで成立する活動であると思いました。

さらに昨年度から始まった写真のプレゼンテーションでは、簡潔にまとめながらできるだけ詳しく、撮影したときの状況や思いを話すことを意識しました。その経験から、相手に伝わりやすいように考えながら話すことの重要性を学びました。

現実にあるものから様々なことを感じ、考えて1回1回シャッターを切ることで、思慮を深めることができる、最高の部活だと感じます。来年度はぜひ写真展や文化祭で私たちの作品をご覧ください。

(佐久間健二)

科学部

現時点までの私たちの活動を漢字で表すとすれば、「挑戦」という言葉が最もふさわしいだろう。今年は昨年度と比べ、体験

や活動する機会が少し多くなった。機会が多くなったということと同時に「挑戦」することも多くなりました。部の全員で一つのことに挑戦し、失敗や改良を加えながら活動を行いました。

そんな中でも記憶に残っているのは、12月下旬にアオウゼで開催されたサイエンスフェスティバルです。昨年このイベントに参加しましたが、昨年よりも参加する団体が多く、また多くの来場者にお越しいただきました。私たちは昨年の反省を生かしこの場に臨みました。多少のアクシデントはあったものの対応をし、イベントを終えることができました。

これからは挑戦で学んだ経験を活かし、部員たちと共に進みながら「挑戦」を続けていきたいと思っています。

(安部楓真)

演劇部

私は、演劇部での活動を通して、多くの人の前で話すことの楽しさを学びました。私は、スピーチなどの注目を集めることが苦手で、無事に終わっても赤面したり、自分の体温が上がるのを実感したりしていたため練習が上手くいっても本番がとて不安でした。ですが、自分の

感情を乗せて演じているというの間に緊張は消え、たくさんの人が自分たちを楽しみにしてくれている高揚感が心を満たしてくれました。

その後、自分の体が熱を持っていることに気づきましたが、きつとそれは緊張や恥ずかしさからくるものではなく、演じながら、自分自身を一生懸命に曝け出すことができたからでしょう。これから先、大変な事も、辛い事もきつとあるでしょう。それでも、同じように心と体が熱くなってもらえるように、たった一瞬でも心を揺らし、ふと思いつくような体験をさせるために、日々を積み重ねていこうと思います。

(梅津志龍)

書道部

1年間、私が書道部の活動を通して学んだことは、互いの作品について活発に意見交換を行い、全体で作品をより良いものにしていくことです。今年度は、私たち書道部は部員の数が増え、私よりも多くなり、新しい挑戦に向き合う年になりました。書道部は、9月21日の世界平和デーに福島県護国神社に作品を奉納する「和プロジェクト」というボランティアに参加し、今年度は縦1・5メートル、横

3メートルの紙に、平和への願いを込めた一つの大きな作品を制作しました。制作途中に悩むこともありましたが、先輩後輩関係なく構成に関してアドバイスをし、協力して行いました。

また、福島県たなばた展で最高学校賞、福島県書道連盟展で団体で文部科学大臣賞をいただきました。その他展覧会でも多くの賞をいただき、日々の活動の成果が実った一年になったと思います。これからも、部員一同今まで以上に作品の深い部分まで掘り下げ、書道の魅力を追求していきます。

(佐藤歌音)

ダンス部

大会、地域のイベント、自主公演、これらは全て一人では成功させることができません。部員、顧問の先生、保護者の方々の協力や支えが必要不可欠です。大会やイベントは、主催者の方や関係者の方々などたくさんの方の協力があったからこそ開催できるものです。だからこそ、ダンスができることへの感謝をいつも忘れないようにしています。

また、イベントなど地域の方々からお声がけ頂けるのは、今まで先輩方がマナーや挨拶などを大切にしてきたからだと思

います。私達も次の代に繋げていけるよう、一人一人が東高校ダンス部FEDとしての自覚を持ち、活動していきたいと思

(星野蒼空)

英語部

私は今年度の活動を通じて多くの貴重な経験をしました。特に印象に残っているのは、天栄村のブリティッシュヒルズへ行き英語研修の活動に参加したことです。今回が英語部初の宿泊研修でもあったため不安な点もありましたがそれ以上の思い出と素敵な経験ができて良かったです。

また今年度は二学期の始業式に新しいALTのジョシュ先生を迎え入れました。ジョシュ先生と初めて会話をした時はとても戸惑う事が多くありました。しかし活動を重ねていくごとに部員全員がジョシュ先生と楽しくコミュニケーションを取れるようになり今では充実した活動ができています。

私は英語部に入部し他国の文化に触れる機会が増え、学びの視野がとて広くなりました。またコミュニケーションをとる楽しさにも気づくことができました。これも部員や先生のおかげだと

思っています。今後も楽しく英語の学びを深めて行きたいと思っています。

(伊東萌生)

応援フラバン

私たちは、桜梅戦や夏の大会などの野球部の試合以外にもサッカー部とハンド部の試合の応援に参加することができました。部員が少なくなっている中での演奏ですが、少しでも選手の方々の力になれるように日々練習をすることができました。試合も一人一人が声を出し、ベストな演奏を届けることができました。部員が少なくなっても、演奏の迫力がなくならないようにするにはどうしたら良いかを一人一人が考え、リズムや音の長さなども合わせることでできるように努力してきました。私たちはこれから自分たちができるベストな応援を届け、少しでも勝利につながるように練習を頑張っていきたいと思っています。また、桜梅戦や応援歌講習などの伝統も大切にし応援プラスバンドの魅力が伝わるように活動を続けていきます。

(宮口琴葉)

転任者の言葉

校歌の力

教頭 齋藤 由美



「さあ、みんなで校歌を歌いましょう。」私は歌っていた頃から何年も経っていて校歌をこの場で歌えるかなと不安になりました。しかし、何年も経っているのにメロディーが流れると、歌詞が自然に口から出てきて歌うことができました。

久しぶりに集まっても先輩・後輩なくその場で共に大合唱ができる、みんなの心がふつとひとつになったような一体感を覚える、時間を経てもその時代に記憶を戻してくれる。

『校歌』には、そんな不思議な力を持っていると思います。

福島東高等学校 校歌
2 学ぶことは 日々を新しく
すること

吾妻の風 阿武隈の水 空
の青

みちのくの 信夫が丘に

われらの知恵の樹を育てよう
櫛のように

今日は 明日の歴史

新しい伝統 おお福島東高

(1・3 省略)

この校歌を初めて聴いたとき、ここ信夫の郷の自然に囲まれ、生徒が伸び伸びと学び成長していく姿が想像でき、「今日は明日の歴史 新しい伝統 おお福島東高」は、何事にも邁進していく勢いを感じました。

この歌詞のように本校は、令和7年度の入学生から『福島東ならではの教育システム』を構築しようとしています。『福島東高の新しい伝統』になるよう教職員一同、『学びの変革』の実現に向け、不易流行を念頭におきながら研鑽しています。

本校の『学びの変革』を実現するためには、まさに社会で大いに活躍されている世代の同窓生の皆さまのお力をお借りしなければならぬことが多々ございます。

在校生が校歌を同窓会等で高らかに歌い上げる卒業生とするために、どうぞ皆さまご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

福島東高校同窓会会報の第21号の発行にあたり、御多用の中同窓会関係者の皆様から、原稿や資料を御寄稿頂きまして厚く御礼申し上げます。

今年度より、会長はじめ同窓会役員の体制が刷新されました。本校の校歌の歌詞にもある「新しい伝統」をまた新役員のもと創造できればと思っております。

会報について、会員の皆様には今後御理解と御協力を賜りたい件を記事中に記載しましたので必ずご確認ください。それは、次年度よりこの同窓会報の

形も刷新されることとなります。記事に掲載したとおり、本会報は会員の皆様より御支援をいただいて作成しておりますが、昨今の情勢に合わせた変化に対応し、ページ数の縮小そしてデジタル化へと順次移行していきます。こちらについては、同窓会専用のホームページでも発信していきますのでよろしくお願いいたします。

さて、今年度は教科「情報Ⅰ」が共通テストで初めて実施された年となり、難易や出題内容に關することが結果速報やSNS等で話題にあがっております。そのような情報を目にし、様々思うところがありました。が、次年度の対応をまた考えて

いかなければと思っております。ただし「情報」を科目として学ぶことは非常に大切ではありますが、試験のため（点数をとるため）だけの教科にはなっていないというものが正直なところではあります。

3月に卒業する高校3年生が大学を卒業し就職するのが2029年であり、昨年の編集後記で記載した「2030年」という新しい社会の中心」となる人材が今の高校3年生と言えます。共通テストの科目に入ってきたことも「誰もがスマホを手にする時代だからこそ、文理関係なく全員が情報の知識を持ち活躍してほしい」というメッセージを伝えるためだと想像すると納得

得できそうですが、「試験のための知識」となってしまうとその意味が失われてしまうので、もう一度「情報」をなぜ学ぶのか？を見つめ直さないといけないと思っています。受験指導は大切ですが、受験だけを目標にするのではなく、社会を生きる知恵を身に着け、生徒自身が自分で考える、価値観をアップデートできる学びを与えられる教員を目指して更なる研鑽を積み重ねたいと思っています。

さて、今年度末で、阿部秀男先生、梅宮康弘先生、佐藤直子先生の3名の先生が退職を迎えます。長く東高校を支えていただいた3名の先生とは、同僚となる前からそれぞれ縁があ

り、様々な場面でお話しさせていただくことができ、ありがたく思っております。3名の先生方に深く感謝を申し上げます。特に、佐藤直子先生は、私の担任ではありませんでしたが20期生の担任団の一人であつたため国語を教わり、その後も、教育実習、そして同僚としても長くお世話になり、成長を見守っていただいた存在であつたと思います。本当にありがとうございました。

私自身40歳を超え、自分の教員としての型というものが出来てきたものの、不足しているものは多いため、時間が許す限り東高をよく知る3名の先生から「今の東高」「次年度から変わる東高」をどう見つけ何を思うのかお聞きし、教員としての型をよりアップデートし、これからの東高を支えるものとして力を尽くしていきたいと考えております。

令和5年度 転出者

職名	氏名	転出先
校長	中野 茂	原町高校
教頭	横山 裕之	福島西高校
事務長	固山 博之	退職（教育庁 福利課）
教諭	大槻 文彦	福島北高校
教諭	濱崎 晋	郡山高校
実習教諭	松本 健一	平工業高校
教諭	佐藤 茂雄	二本松実業高校
教諭	真柴 毅	福島工業高校
時間講師	町田 郁弥	退職（福島高校・橘高校）
時間講師	金川 勇次	退職
PTA雇用職員	對馬 綾子	退職

※令和6年度本校継続者は除く

令和6年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	小林 寿宣	いわき総合高校	理科
教頭	齊藤 由美	福島明成高校	家庭
事務長	菅野 稔浩	相双地方振興局	
教諭	佐藤 朋子	郡山高校	芸術(音楽)
教諭	佐藤 善明	二本松実業高校	理科
実習助手	渡辺 浩子	福島南高校	理科
再任用教諭	加藤 聡	継	数学
再任用教諭	安齋 雅高	継	芸術(美術)
再任用教諭	鬼満 亮	継	数学
非常勤(月手講師)	菅野 和弘	継	理科
養護助教諭(月手)	平塚 知世	継	
時間講師	狩野 剛	新採用	地歴公民
時間講師	安藤 ゆずな	継	数学
時間講師	佐藤 智恵美	継	英語
時間講師	富山 和美	継	家庭
専門員	阿部 千春	継	
ポイラー技士兼校務員	菅野 嘉之	継	
校務員	牧野 弘	継	
校務員	菅野 秀之	継	
会計年度任用職員	神野 藤磨	継	
PTA雇用(兼:校長協会雇用職員)	児玉 紀子	継	
スクールサポートスタッフ	坂本 花織	継	

令和6年度 教育実習生

(同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生
菅野 雅喜	地歴(日本史)	39期
佐藤 光雅	数学	39期
吉川 京佑	理科(生物)	39期
遠藤 あゆみ	英語	40期
藤原 秀斗	保健体育	39期
長澤 悠晟	保健体育	40期

結びになります。が、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動に対し、御指導・御支援賜りますようお願い申し上げます。

(20期生 羽田真幸)